

令和4年度

市政モ二夕一報告書

枚方市 市長公室 広聴相談課

目 次

1. 市政モニター概要 1 頁
2. 枚方市の文化芸術に関するアンケート 3 頁
3. いのち支える行動計画（自殺対策計画）に関するアンケート . . . 7 頁
4. 枚方市の交通施策の推進に関するアンケート 55 頁
5. 市民相談およびパブリックコメントに関するアンケート 63 頁

令和4年度 市政モニター概要

市政モニターアンケートテーマ

第1回

- ①枚方市の文化芸術に関するアンケート（文化生涯学習課）
- ②いのち支える行動計画（自殺対策計画）に関するアンケート（保健医療課）

第2回

- ①枚方市の交通施策の推進に関するアンケート（土木政策課）
- ②市民相談およびパブリックコメントに関するアンケート（広聴相談課）

実施日	第1回 アンケート送付日	令和4年9月12日
	回答締切日	令和4年9月27日
	第2回 アンケート送付日	令和4年11月16日
	回答締切日	令和4年11月30日

回答率

		モニター区分	モニター数 (人)	回答数 (人)	回答率 (%)	
第1回	①	eモニター	396	329	83.1%	85.6%
		郵送モニター	103	98	95.1%	
	②	eモニター	396	317	80.1%	83.6%
		郵送モニター	103	100	97.1%	
第2回	①	eモニター	396	327	82.6%	85.6%
		郵送モニター	103	100	97.1%	
	②	eモニター	396	308	77.8%	81.8%
		郵送モニター	103	100	97.1%	

※この報告書は、各アンケートの担当部署が作成したものを、広聴相談課で取りまとめたものです。内容について問い合わせ等がある場合は、各担当部署にお願いします。

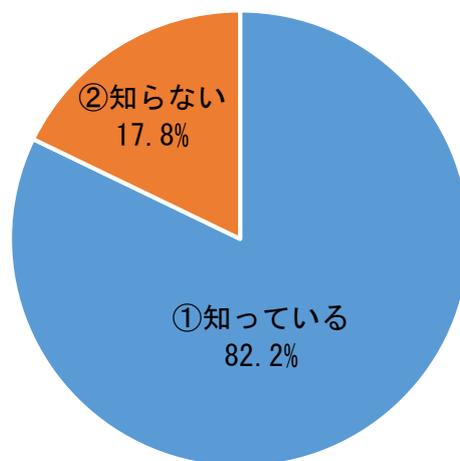
枚方市の文化芸術に関するアンケート

本市では、文化芸術に満ちあふれたまちづくりを目指し、枚方市文化芸術振興条例、枚方市文化芸術振興計画に基づき、大阪フィルハーモニー交響楽団との連携による「中学校オーケストラ鑑賞事業」や、小学校にアーティストが出向いて実演する「アウトリーチ事業」など、子どもたちが文化芸術に親しむ機会の創出や、2021年8月にオープンした総合文化芸術センターにおいて、音楽、演劇、古典芸能などの多彩な公演やワークショップ、ギャラリー展示会などを開催しています。

今回、市民の皆様が本市の文化芸術についてどう感じておられるのかを知り、今後の施策に活かすため、アンケートを実施したものです。

問 1. 枚方市の文化芸術の拠点施設として 2021 年 8 月に開館した枚方市総合文化芸術センターを知っていますか。

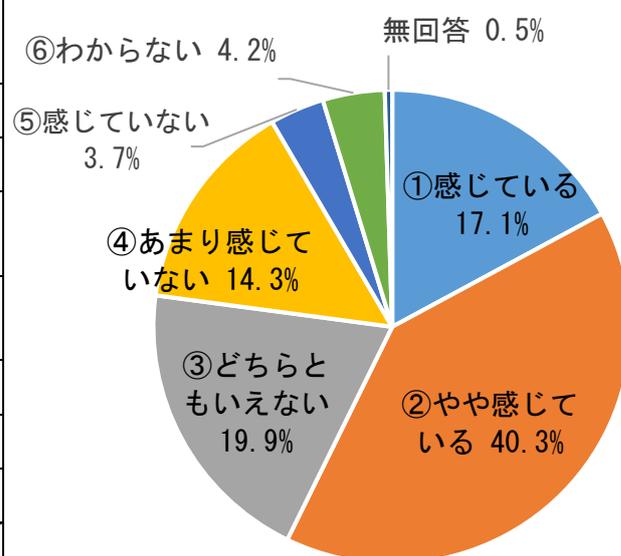
選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①知っている	351	82.2
②知らない	76	17.8
合計	427	



約 8 割の方から枚方市総合文化芸術センターを「知っている」との回答を得ました。

問 2. 枚方市では、文化芸術に親しめる環境が整っていると感じていますか。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①感じている	73	17.1
②やや感じている	172	40.3
③どちらともいえない	85	19.9
④あまり感じていない	61	14.3
⑤感じていない	16	3.7
⑥わからない	18	4.2
無回答	2	0.5
合計	427	



「感じている」、「やや感じている」の合計は全体の約 57.4%と半数を超えており、「感じていない」、「あまり感じていない」の合計の約 18.0%を大きく上回っています。

問 3. 枚方市のこれからの文化芸術施策に関して、ご意見があればご自由にご記入ください。

<いただいたご意見>

- ・総合文化芸術センターが拠点施設として出来た事がまずすばらしいと思う。今後の努力として幅広い開催をお願いしたいと思います。
- ・フェスティバルホール等遠くまで行かなくても市民会館でいろんなコンサート等をしてくださると高齢になっても行きやすく助かります。
- ・文化芸術センターを活用し、五嶋みどり氏のような優れたアーティストとの連携をもっと増やし、特に子どもたちにクラシック音楽も含めた様々な文化芸術に触れる機会を作って欲しい。
- ・500円コンサートの取り組みは素晴らしい。このコンサートのお蔭でクラシックに興味を持ち、夫婦でお気に入りの奏者のコンサートに足を運ぶようになった。
- ・未就学児のころから、親しめる音楽、芸術のイベントがもう少し増えればと思います。たいてい、不可なのですが、やはり幼い頃から身近に親しめる環境が必要かと思います。ときどき学習センターなどで無料の演奏会など開催していただけるのはありがたいです。
- ・市民が参加できたり、関われるイベントが増えれば嬉しいです。例えば市民をイベントに招待していただける等の機会が増えれば関心が高まってくると思います。
- ・公演及び展示される内容をもう少し詳しく広報誌ひらかたでPRしては。
- ・文化芸術に親しみを持つには、精神的、経済的に余裕が持てればいいが、コロナ禍の今、中々そうはいかない。民間から出てくる要望や依頼には答えていつて、市が上から目線で導こうとするのは控えた方がいい時機ではないでしょうか。
- ・文化芸術活動があまり見えない感じがします。従来の文化芸術施策に留まらず、もっと斬新でインパクトのある、これからの時代を見据えた表現者を育てる環境を整備することを望みます。

主に2021年8月に開館しました枚方市総合文化芸術センターについて、多種多様な分野の文化事業を期待する内容や、子ども向け事業・市民参加型イベントの充実、無料イベントの開催を希望するなどのご意見を多くいただきました。また、センターで開催される事業の情報発信方法の改善や、若手芸術家への支援、今後の枚方の文化施策の方向性について様々なご意見をいただきました。

【まとめ】

本アンケートは市民の皆様が本市の文化芸術についてどう感じているかを知り、今後の施策に活かすため、実施させていただきました。

結果の考察については、約 8 割の方が 2021 年 8 月に開館しました文化芸術の拠点施設である枚方市総合文化芸術センターの存在を知っていただいております、本市において約 57.4%の方が文化芸術に親しめる環境が整っていると「感じている」、「やや感じている」ことがわかりました。

ただ、今後の本市の文化芸術施策に関し問 3 の自由記述においては、総合文化芸術センターを拠点に、より一層子どもたちに文化芸術に触れる機会を望む声や、様々なジャンルの文化芸術に触れる機会の創出を希望するお声を多くいただいた一方で、施設で行われる開催事業の PR 不足や、若手芸術家への支援の充実など課題も多くいただきました。いただいたご意見を踏まえ、今後も総合文化芸術センターが市民に愛され、ご利用いただける施設として確立するとともに、本市の文化芸術行政のさらなる推進に取り組んで参ります。

いのち支える行動計画（自殺対策計画） に関するアンケート

本市では、国の自殺対策基本法に基づき、自殺対策大綱や地域の実情を勘案して平成31年3月に「枚方市いのち支える行動計画（自殺対策計画）」を策定しました。本計画は、誰も自殺に追い込まれることなく、安心して生きることができるよう、社会全体で生きることの包括的支援を行い、市民一人ひとりが心身ともに健やかに暮らせる「ひらかた」を目指すことを基本理念にしています。

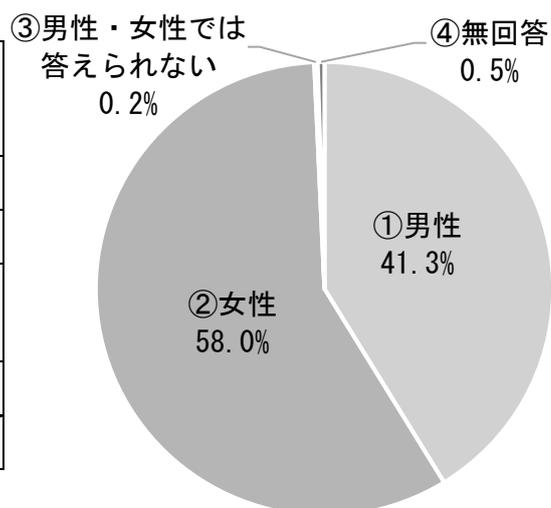
今回のアンケート調査は、本計画の取り組みの一環として実施するものであり、ご記入いただいた内容については、令和6年度を始期とする次期計画の策定および評価、今後の自殺対策のための資料とさせていただきたいと考えています。

<補足>

本報告書においては、分かりやすさのため、アンケート実施時の回答選択肢と順序を変えて表記している設問がありますが、ご了承ください。

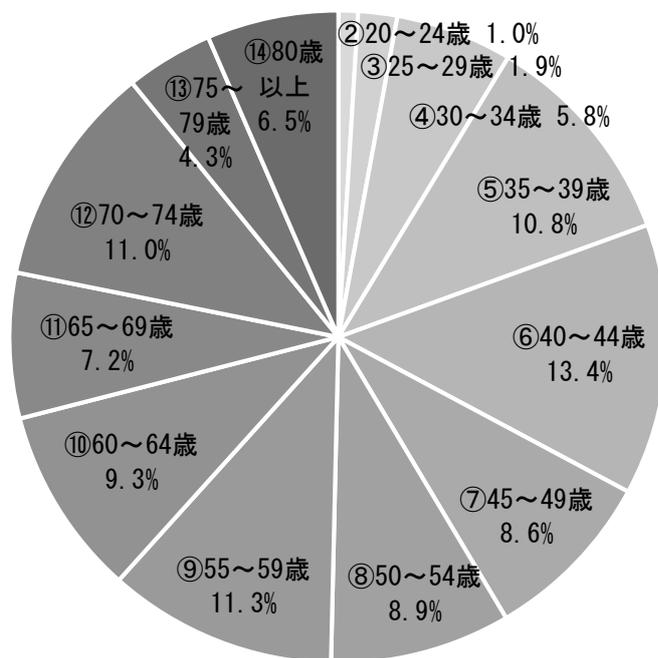
問1. あなたの性別について、あてはまるものを選んでください。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①男性	172	41.3
②女性	242	58.0
③男性・女性では 答えられない	1	0.2
④無回答	2	0.5
合計	417	



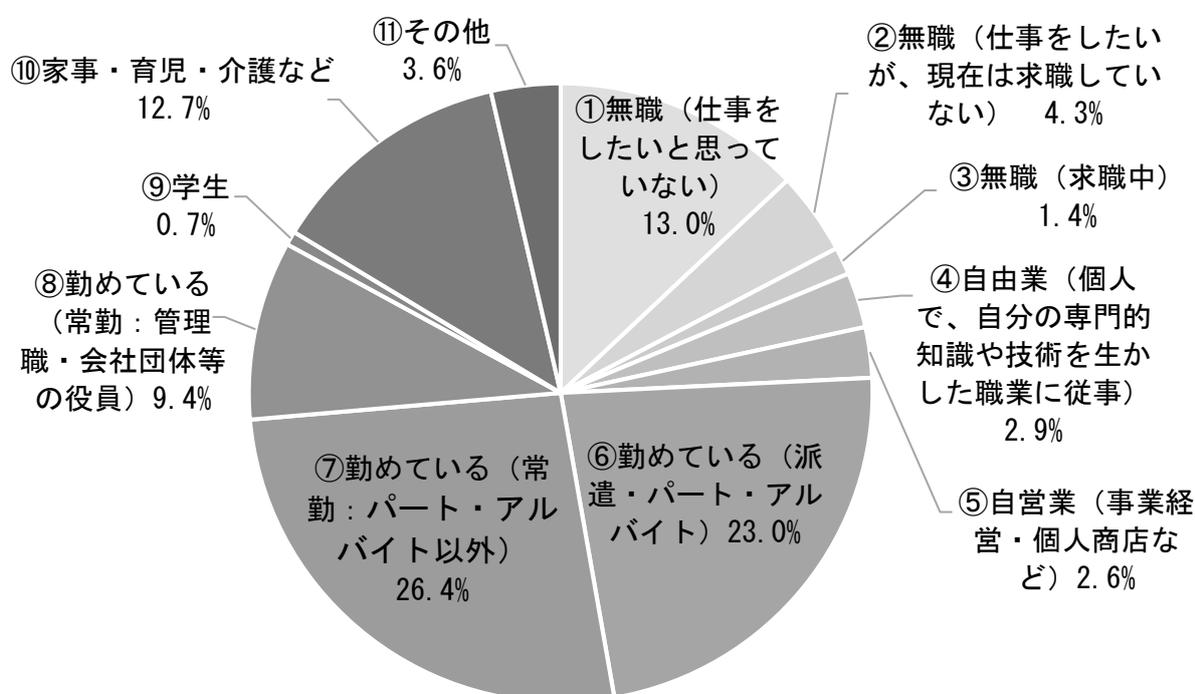
問2. あなたの年齢について、あてはまるものを選んでください。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①18～19歳	0	0.0
②20～24歳	4	1.0
③25～29歳	8	1.9
④30～34歳	24	5.8
⑤35～39歳	45	10.8
⑥40～44歳	56	13.4
⑦45～49歳	36	8.6
⑧50～54歳	37	8.9
⑨55～59歳	47	11.3
⑩60～64歳	39	9.3
⑪65～69歳	30	7.2
⑫70～74歳	46	11.0
⑬75～79歳	18	4.3
⑭80歳以上	27	6.5
合計	417	



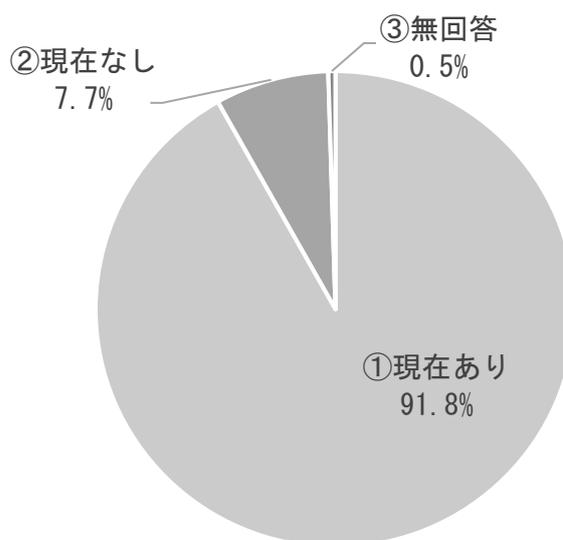
問3. あなたの職業について、あてはまるものを選んでください。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①無職（仕事をしたいと思っていない）	54	13.0
②無職（仕事をしたいが、現在は求職していない）	18	4.3
③無職（求職中）	6	1.4
④自由業（個人で、自分の専門的知識や技術を生かした職業に従事）	12	2.9
⑤自営業（事業経営・個人商店など）	11	2.6
⑥勤めている（派遣・パート・アルバイト）	96	23.0
⑦勤めている（常勤：パート・アルバイト以外）	110	26.4
⑧勤めている（常勤：管理職・会社団体等の役員）	39	9.4
⑨学生	3	0.7
⑩家事・育児・介護など	53	12.7
⑪その他	15	3.6
合計	417	



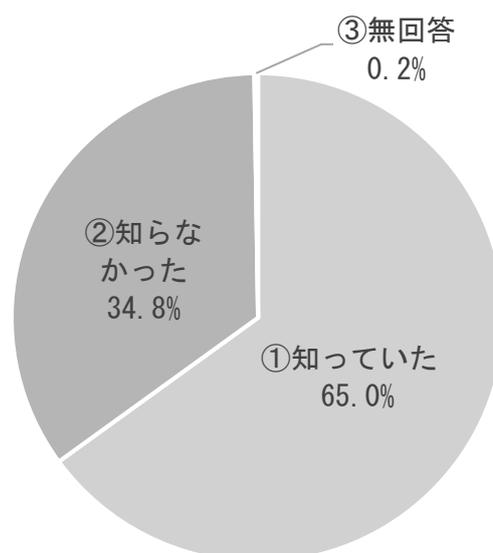
問 4. 現在、あなたと一緒に住んでいる方（家族など）はいらっしゃいますか。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①現在あり	383	91.8
②現在なし	32	7.7
③無回答	2	0.5
合計	417	



問 5. 我が国の自殺者数は令和元年まで 10 年連続で減少していましたが、令和 2 年には 11 年ぶりの増加となり、約 2 万 1,000 人の方が亡くなっています。あなたは、毎年、このように多くの方が自殺で亡くなっていることを知っていましたか。

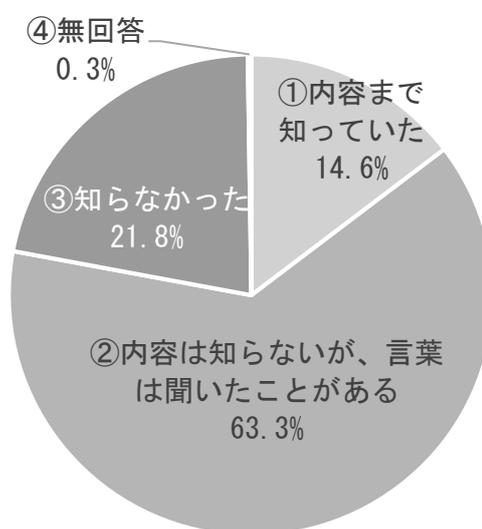
選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①知っていた	271	65.0
②知らなかった	145	34.8
③無回答	1	0.2
合計	417	



【問 6. 自殺対策に関する事柄を知っているかどうか】

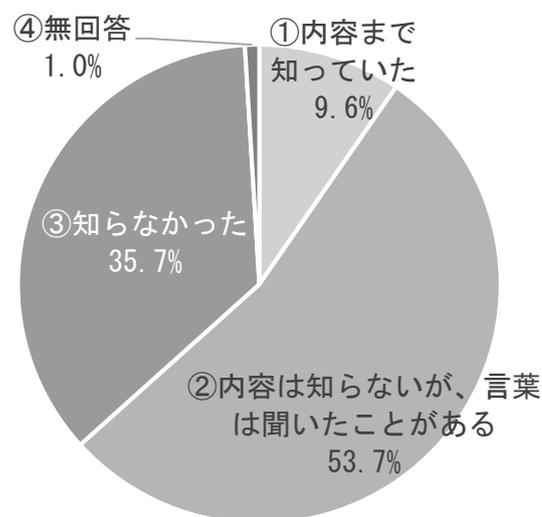
問 6-1. 「こころの健康相談統一ダイヤル」を知っていましたか。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①内容まで知っていた	61	14.6
②内容は知らないが、言葉は聞いたことがある	264	63.3
③知らなかった	91	21.8
④無回答	1	0.3
合計	417	



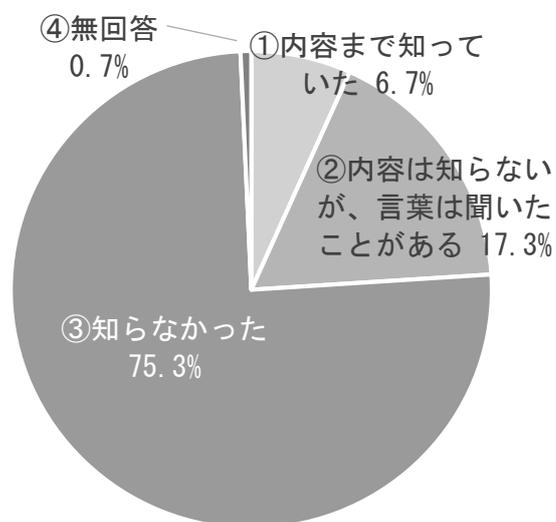
問 6-2. 「ひらかた いのちのホットライン」を知っていましたか。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①内容まで知っていた	40	9.6
②内容は知らないが、言葉は聞いたことがある	224	53.7
③知らなかった	149	35.7
④無回答	4	1.0
合計	417	



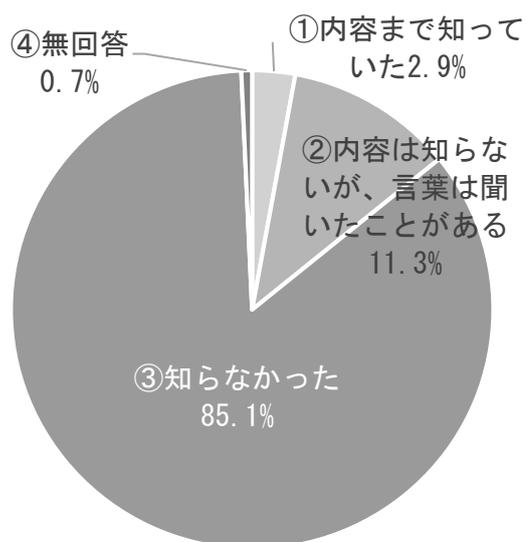
問 6-3. 「ゲートキーパー（自殺のサインに気づき、適切な対応をとる人）」を知っていましたか。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①内容まで知っていた	28	6.7
②内容は知らないが、言葉は聞いたことがある	72	17.3
③知らなかった	314	75.3
④無回答	3	0.7
合計	417	



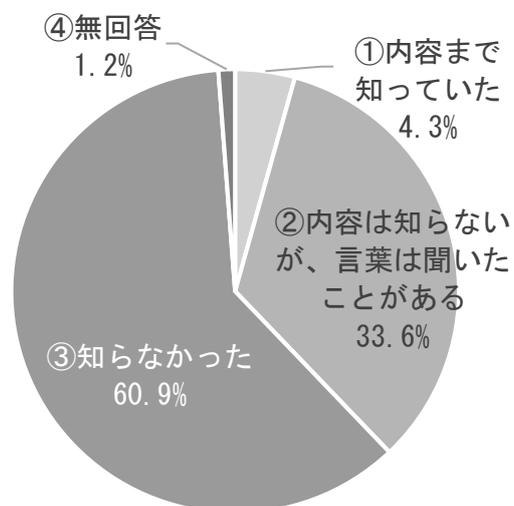
問 6-4. 「こころの体温計（ウェブサイトによるメンタルヘルスチェック）」を知っていましたか。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①内容まで知っていた	12	2.9
②内容は知らないが、言葉は聞いたことがある	47	11.3
③知らなかった	355	85.1
④無回答	3	0.7
合計	417	



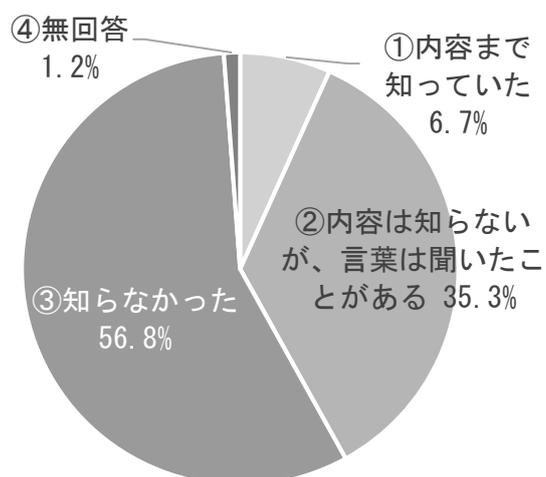
問 6-5. 「自死遺族のつどい」を知っていましたか。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①内容まで知っていた	18	4.3
②内容は知らないが、言葉は聞いたことがある	140	33.6
③知らなかった	254	60.9
④無回答	5	1.2
合計	417	



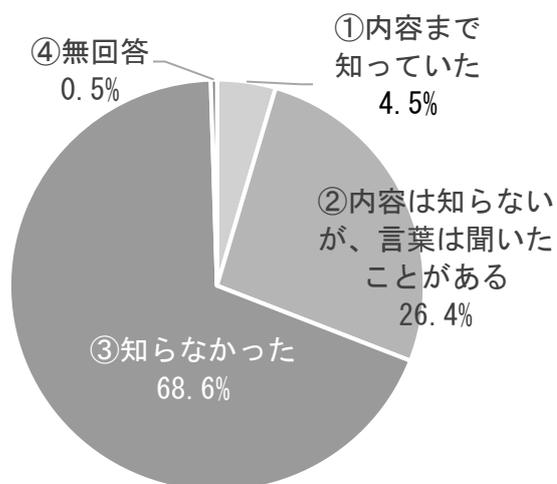
問 6-6. 「自殺予防週間（毎年9月10日～16日）」を知っていましたか。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①内容まで知っていた	28	6.7
②内容は知らないが、言葉は聞いたことがある	147	35.3
③知らなかった	237	56.8
④無回答	5	1.2
合計	417	



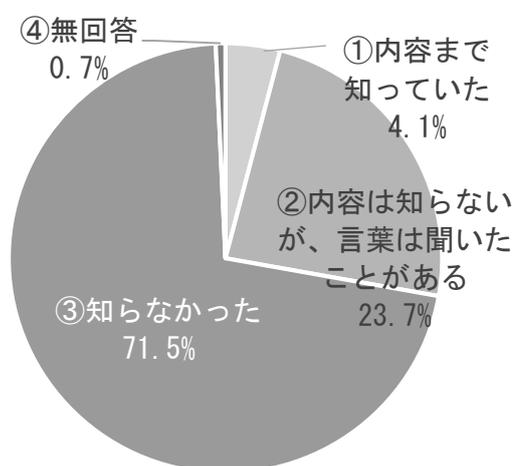
問 6-7. 「自殺対策強化月間（毎年 3 月）」を知っていましたか。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①内容まで知っていた	19	4.5
②内容は知らないが、言葉は聞いたことがある	110	26.4
③知らなかった	286	68.6
④無回答	2	0.5
合計	417	



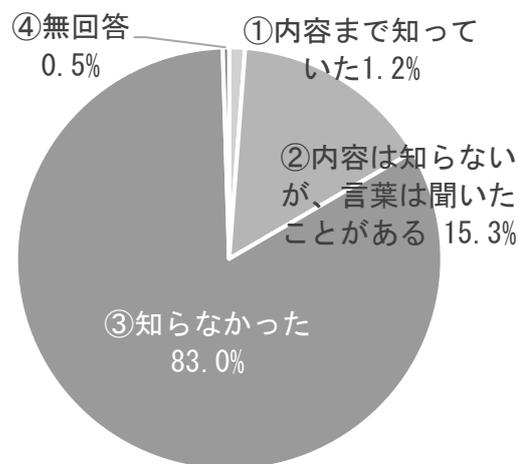
問 6-8. 「自殺対策基本法」を知っていましたか。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①内容まで知っていた	17	4.1
②内容は知らないが、言葉は聞いたことがある	99	23.7
③知らなかった	298	71.5
④無回答	3	0.7
合計	417	



問 6-9. 「枚方市いのち支える行動計画」を知っていましたか。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①内容まで知っていた	5	1.2
②内容は知らないが、言葉は聞いたことがある	64	15.3
③知らなかった	346	83.0
④無回答	2	0.5
合計	417	



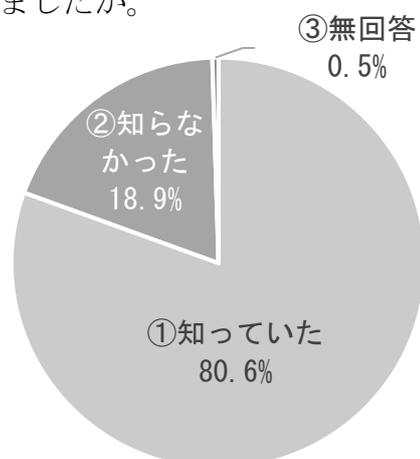
【考察】

問 6（自殺対策に関する設問）については、「内容まで知っていた」という回答は、多いものでも「こころの健康相談統一ダイヤル」が 14.6%であり、「ひらかた いのちのホットライン」は 9.6%、「ゲートキーパー」や「自殺予防週間」は 6.7%、「こころの体温計（ウェブサイトによるメンタルヘルスチェック）」は 2.9%と少なかった。

自殺対策に関する支援や理解、普及啓発活動に関する認知度が全体的に低いことがうかがえる。

問 7. あなたは、『自死』という言葉を知っていましたか。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①知っていた	336	80.6
②知らなかった	79	18.9
③無回答	2	0.5
合計	417	



◇「自殺」「自死」に関する表現について

枚方市における「自殺」「自死」に関する表現については、以下のような方針を定めています。

わが国では、年間自殺者数が平成10年以降、14年連続で3万人を超え、最近では減少傾向にあるものの、依然高い水準で推移しています。本市においても、これまで毎年50人を超える方が自殺によって亡くなっています。

近年、「自殺」の表現を「自死」に置き換えては、という議論があり、その背景に家族などを失い深く傷ついている多くの遺族の存在があります。

一方で、「自死」の表現を巡っては、過酷な現実がオブラートに包まれる印象があり、死へのハードルが下がることも懸念される等、様々な意見があります。

そこで、本市では、「自殺」「自死」に関する表現について、以下の方針を基本とし、本市が実施する事業や作成文書等において、遺族の方や関係者の気持ちに配慮しながら、適切な表現に努めます。

<方針>

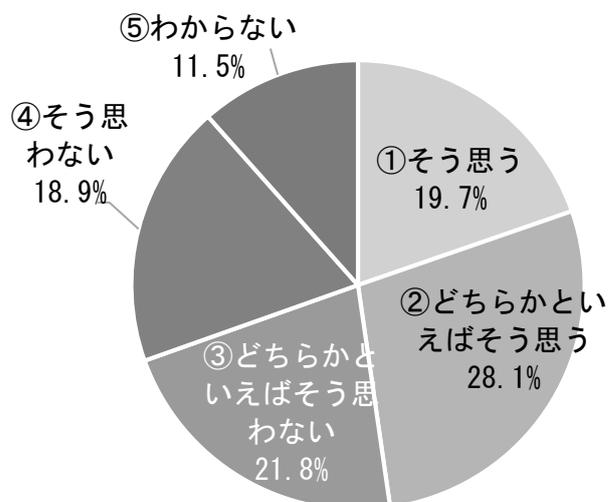
○遺族や遺児に関する表現を行う場合に関しては、心情に配慮し、遺族や遺児に向けた文章等に「自死」を使用する。

○自殺対策基本法等の法律で「自殺」という表現を使用しており、行為を表現するときは「自殺」を使用する。

なお、「自殺」「自死」の表現の使い分けにあたり、NPO法人全国自死遺族総合支援センターが作成している「『自死・自殺』の表現に関するガイドライン」を参考にしながら適切な表現に努めます。

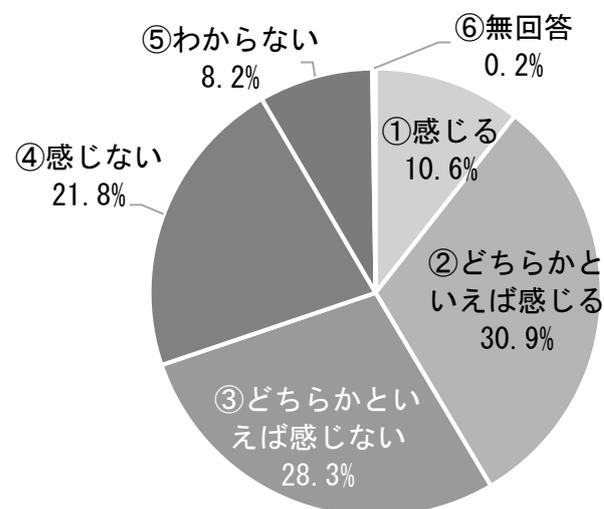
問 8. 自殺対策は自分自身に関わる問題だと思いませんか。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
① そう思う	82	19.7
② どちらかといえばそう思う	117	28.1
③ どちらかといえばそう思わない	91	21.8
④ そう思わない	79	18.9
⑤ わからない	48	11.5
合計	417	



問 9. あなたは、悩みを抱えたときやストレスを感じたとき、誰かに相談したり助けを求めたりすることにためらいを感じますか。

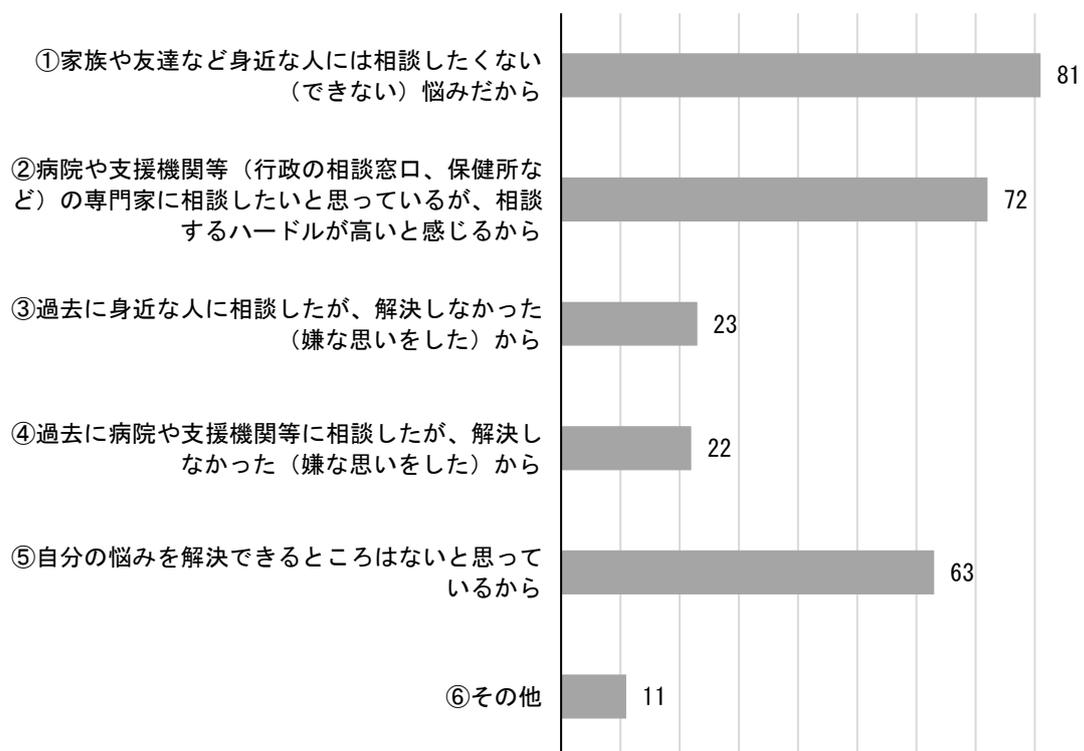
選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
① 感じる	44	10.6
② どちらかといえば感じる	129	30.9
③ どちらかといえば感じない	118	28.3
④ 感じない	91	21.8
⑤ わからない	34	8.2
⑥ 無回答	1	0.2
合計	417	



問 9-1. 誰かに悩みを相談したり、助けを求めたりすることにためらいを感じる理由について、あてはまるものすべてを選んでください。

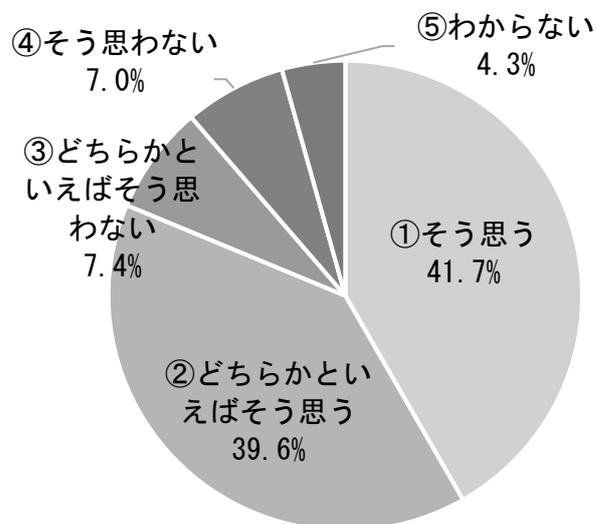
※問 9 で「①感じる」、「②どちらかといえば感じる」と答えた方のみ回答

選択項目	回答数 (件)
①家族や友達など身近な人には相談したくない（できない）悩みだから	81
②病院や支援機関等（行政の相談窓口、保健所など）の専門家に相談したいと思っているが、相談するハードルが高いと感じるから	72
③過去に身近な人に相談したが、解決しなかった（嫌な思いをした）から	23
④過去に病院や支援機関等に相談したが、解決しなかった（嫌な思いをした）から	22
⑤自分の悩みを解決できるところはないと思っているから	63
⑥その他	11
合計	272



問 10. あなたの周囲の人たちとの関係について、あなたの不満や悩み、つらい気持ちを受け止め、耳を傾けてくれる人は、あなたの周囲にいると思いますか。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①そう思う	174	41.7
②どちらかといえばそう思う	165	39.6
③どちらかといえばそう思わない	31	7.4
④そう思わない	29	7.0
⑤わからない	18	4.3
合計	417	

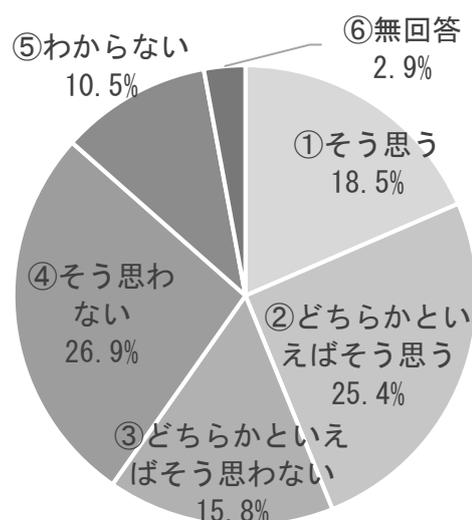


【問 11～問 17】は、自殺やうつに関してお聞きします。回答にご負担を感じると思われる方は【問 11～問 17】に回答しないで、【問 18】から回答してください。

【問 11. 自殺に対してどのように思うか】

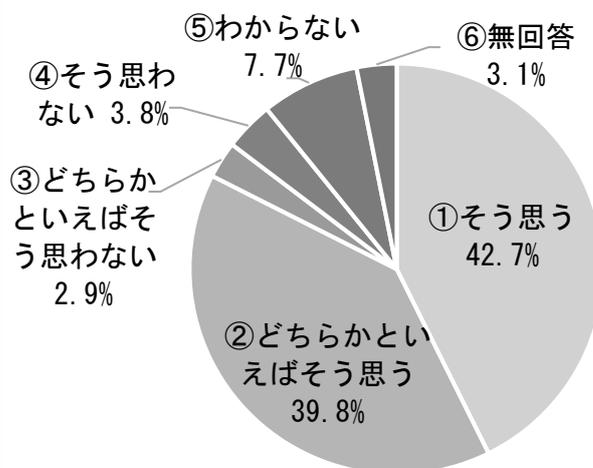
問 11-1. 自殺に関して、生死は最終的に本人の判断に任せるべきであると思う。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①そう思う	77	18.5
②どちらかといえばそう思う	106	25.4
③どちらかといえばそう思わない	66	15.8
④そう思わない	112	26.9
⑤わからない	44	10.5
⑥無回答	12	2.9
合計	417	



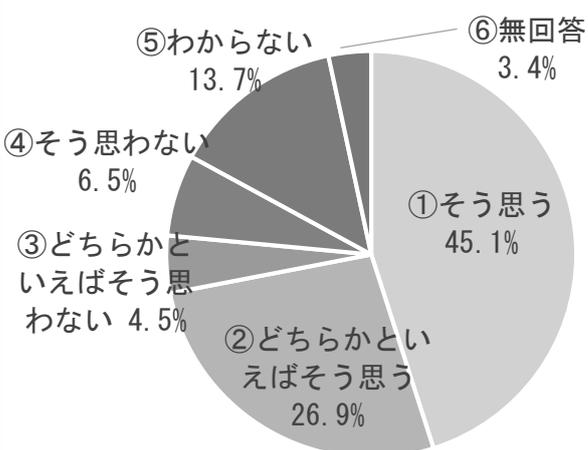
問 11-2. 自殺に関して、自殺せずに生きていけば良いことがあると思う。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①そう思う	178	42.7
②どちらかといえば そう思う	166	39.8
③どちらかといえば そう思わない	12	2.9
④そう思わない	16	3.8
⑤わからない	32	7.7
⑥無回答	13	3.1
合計	417	



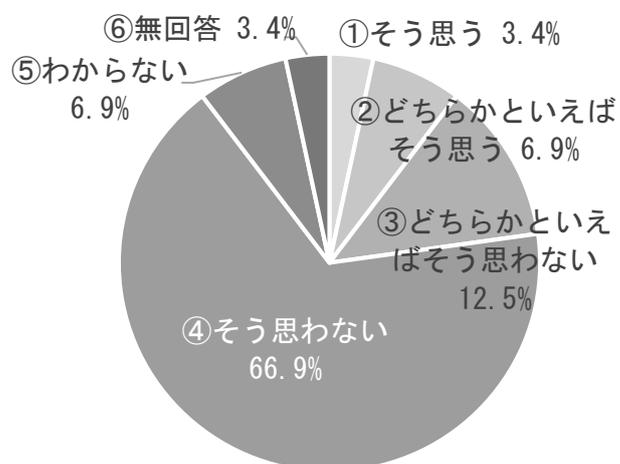
問 11-3. 自殺に関して、自殺する人は、直前まで実行するかやめるか気持ちが揺れ動いていると思う。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①そう思う	188	45.1
②どちらかといえば そう思う	112	26.9
③どちらかといえば そう思わない	19	4.5
④そう思わない	27	6.5
⑤わからない	57	13.7
⑥無回答	14	3.3
合計	417	



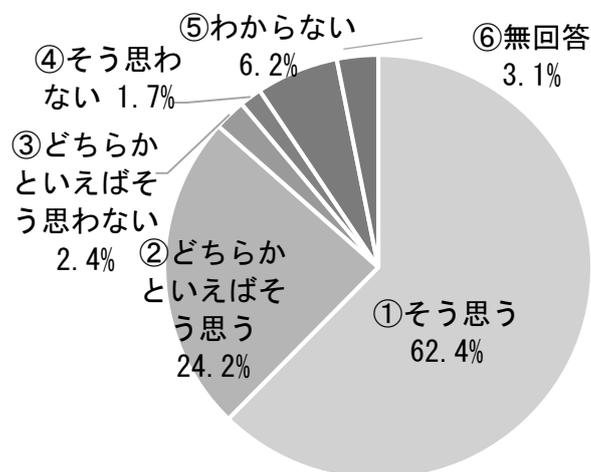
問 11-4. 自殺に関して、責任を取って自殺することは仕方がないと思う。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
① そう思う	14	3.4
② どちらかといえば そう思う	29	6.9
③ どちらかといえば そう思わない	52	12.5
④ そう思わない	279	66.9
⑤ わからない	29	6.9
⑥ 無回答	14	3.4
合計	417	



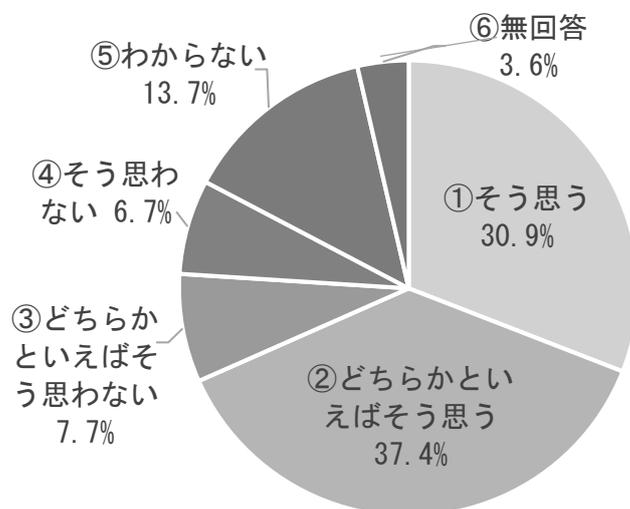
問 11-5. 自殺に関して、自殺する人はつらい気持ちを持っていると思う。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
① そう思う	260	62.4
② どちらかといえば そう思う	101	24.2
③ どちらかといえば そう思わない	10	2.4
④ そう思わない	7	1.7
⑤ わからない	26	6.2
⑥ 無回答	13	3.1
合計	417	



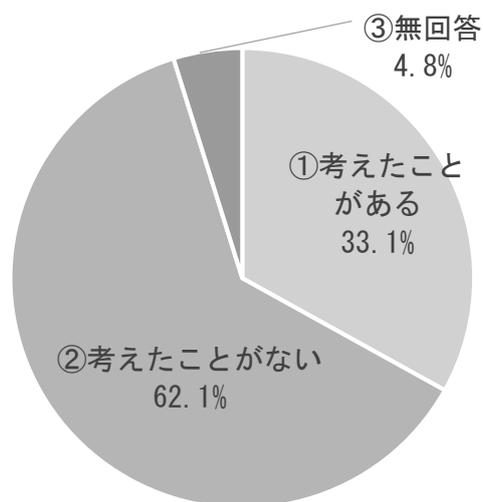
問 11-6. 自殺に関して、自殺はその多くが防ぐことのできる社会的な問題であると思う。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①そう思う	129	30.9
②どちらかといえば そう思う	156	37.4
③どちらかといえば そう思わない	32	7.7
④そう思わない	28	6.7
⑤わからない	57	13.7
⑥無回答	15	3.6
合計	417	



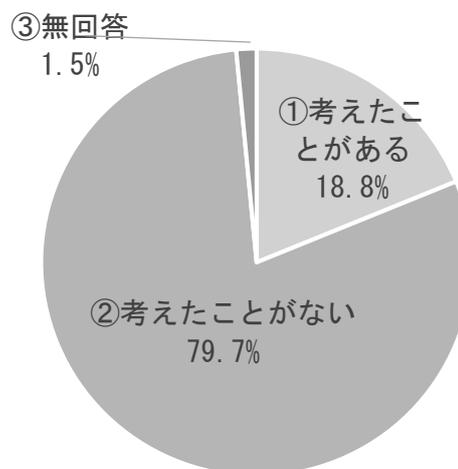
問 12. あなたは、これまでの人生のなかで、自ら命を絶ちたいと考えたことがありますか。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①考えたことがある	138	33.1
②考えたことがない	259	62.1
③無回答	20	4.8
合計	417	



問 12-1. 最近 1 年以内に、自ら命を絶ちたいと考えたことがありますか。
 ※問 12 でこれまでの人生のなかで、自ら命を絶ちたいと「①考えたことがある」と回答した方のみ回答

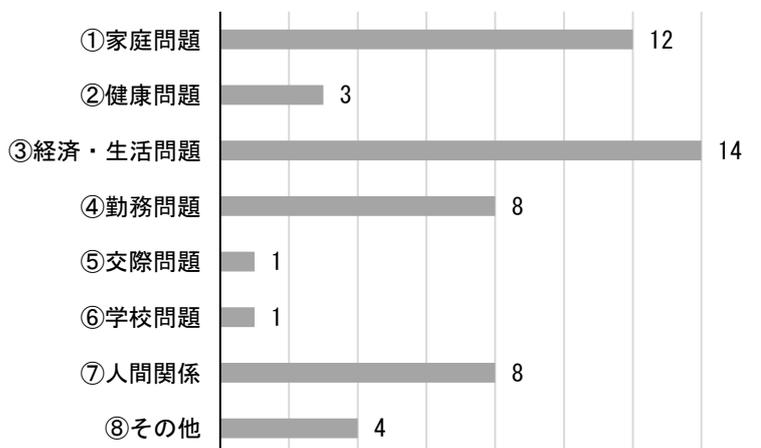
選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①考えたことがある	26	18.8
②考えたことがない	110	79.7
③無回答	2	1.5
合計	138	



問 12-2(1). 最近 1 年以内で自ら命を絶ちたいと考えた理由は何ですか。あてはまるものすべてを選んでください。

※問 12-1 で最近 1 年以内に、自ら命を絶ちたいと「①考えたことがある」と回答した方のみ回答

選択項目	回答数 (件)
①家庭問題	12
②健康問題	3
③経済・生活問題	14
④勤務問題	8
⑤交際問題	1
⑥学校問題	1
⑦人間関係	8
⑧その他	4
合計	51



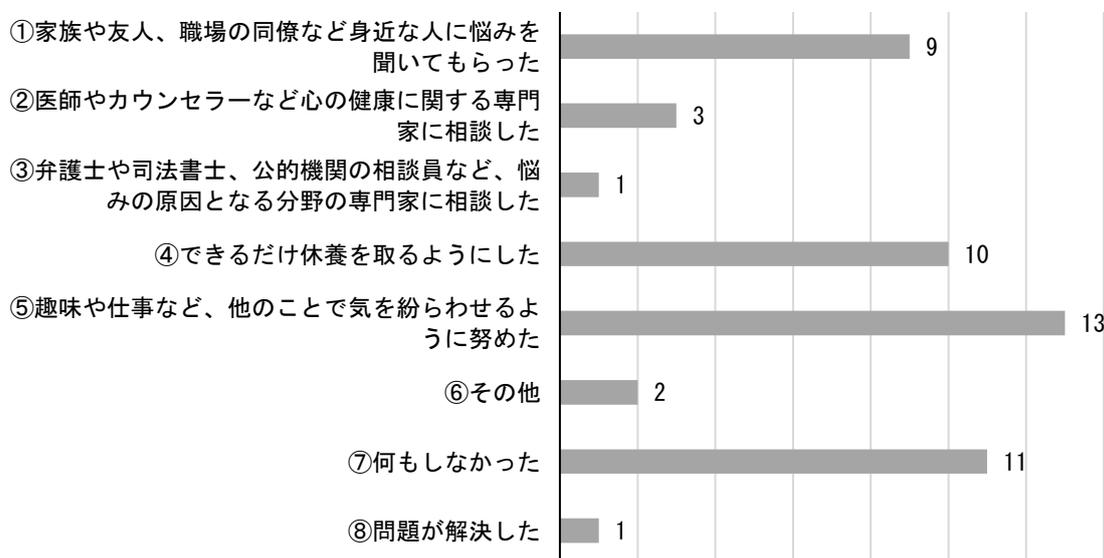
【考察】

「経済・生活問題」が最も多く、次いで「家庭問題」、「勤務問題」、「人間関係」が多くなっている。

問 12-2(2). 最近1年以内で自ら命を絶ちたいと考えたとき、どのようにして対処しましたか。あてはまるものすべてを選んでください。

※問 12-1 で最近1年以内に、自ら命を絶ちたいと「①考えたことがある」と回答した方のみ回答

選択項目	回答数 (件)
①家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらった	9
②医師やカウンセラーなど心の健康に関する専門家に相談した	3
③弁護士や司法書士、公的機関の相談員など、悩みの原因となる分野の専門家に相談した	1
④できるだけ休養を取るようにした	10
⑤趣味や仕事など、他のことで気を紛らわせるように努めた	13
⑥その他	2
⑦何もしなかった	11
⑧問題が解決した	1
合計	50

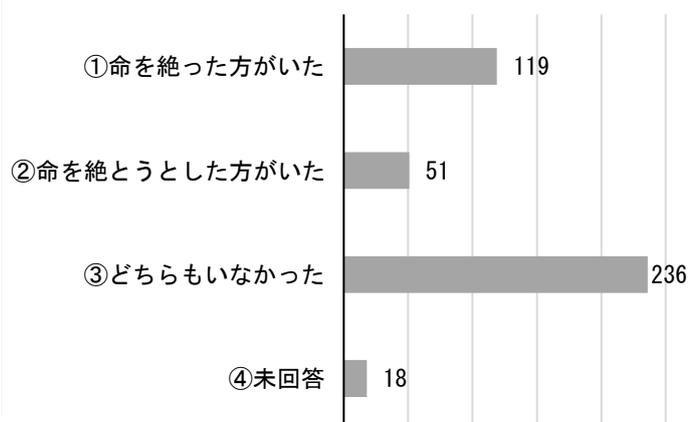


【考察】

自ら命を絶ちたいと思ったときに、気を紛らわせたり休養を取ったりするなど自分自身のセルフケアで解決しようとする人や「身近な人に悩みを聞いてもらった方も一定数いた。一方、「何もしなかった」と回答した方も多かった。

問 13. あなたの周りで、これまでに自ら命を絶った方や命を絶とうとした方はいらっしゃいましたか。あてはまるものすべてを選んでください。

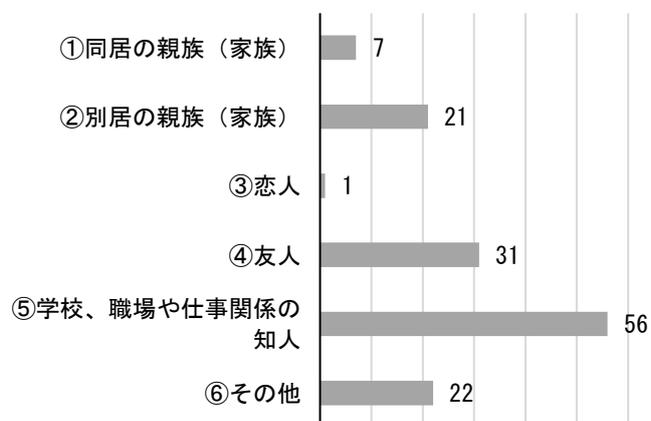
選択項目	回答数 (件)
①命を絶った方がいた	119
②命を絶とうとした方がいた	51
③どちらもいなかった	236
④無回答	18
合計	424



問 13-1. 命を絶った方とあなたはどのような関係でしたか。あてはまるものすべてを選んでください。

※問 13 で「①命を絶った方がいた」と回答した方のみ回答

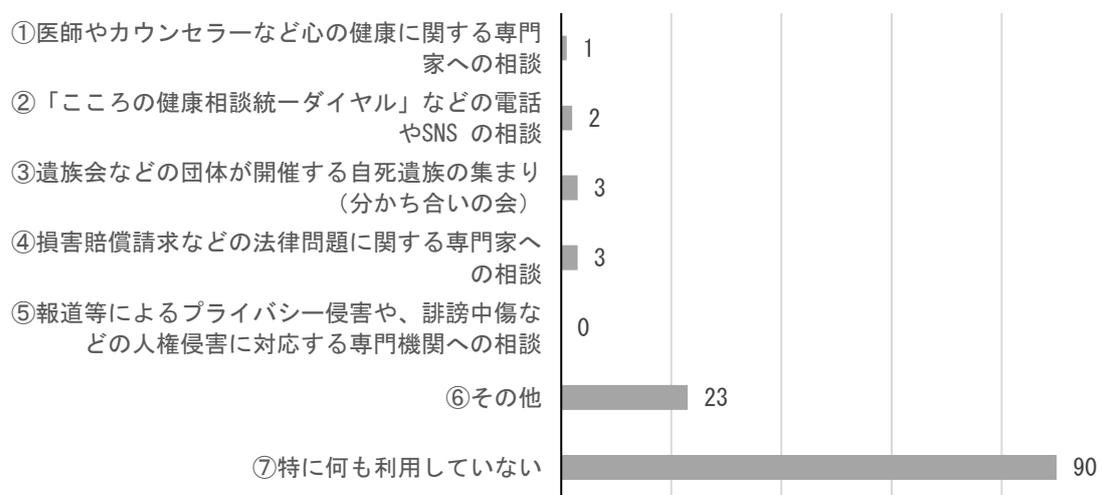
選択項目	回答数 (件)
①同居の親族（家族）	7
②別居の親族（家族）	21
③恋人	1
④友人	31
⑤学校、職場や仕事関係の知人	56
⑥その他	22
合計	138



「⑥その他」には、「近所の人」「知人」「知人の親族」「同級生」などがありました。

問 13-2. 身近な方を亡くしたとき、あなたは公的な相談機関や民間団体の支援を利用しましたか。利用した支援にあてはまるものをすべて選択してください。
 ※問 13 で「①命を絶った方がいた」と回答した方のみ回答

選択項目	回答数 (件)
①医師やカウンセラーなど心の健康に関する専門家への相談	1
②「こころの健康相談統一ダイヤル」などの電話や SNS の相談	2
③遺族会などの団体が開催する自死遺族の集まり（分かち合いの会）	3
④損害賠償請求などの法律問題に関する専門家への相談	3
⑤報道等によるプライバシー侵害や、誹謗中傷などの人権侵害に対応する専門機関への相談	0
⑥その他	23
⑦特に何も利用していない	90
合計	122

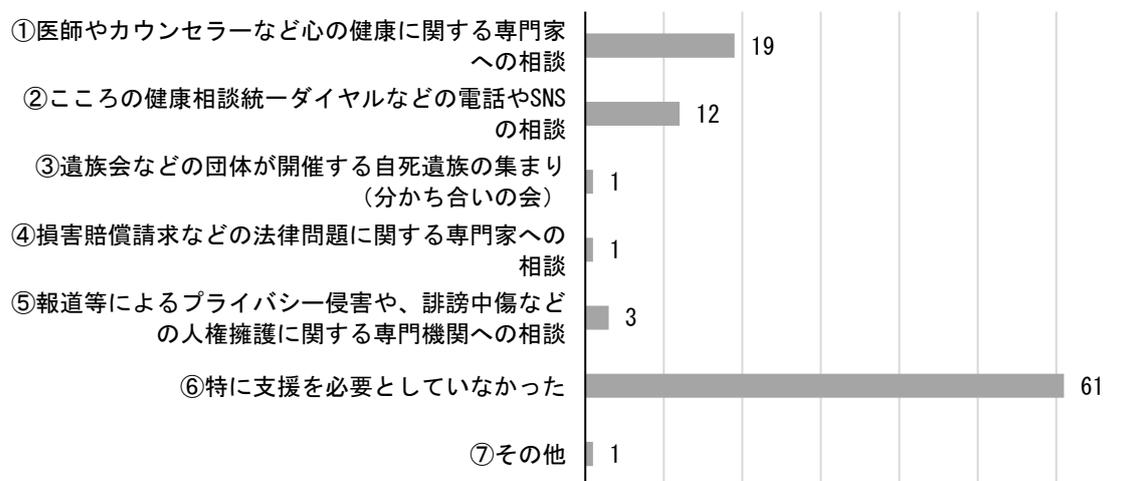


「⑥その他」には、「教会で祈った」「焼香に行った」がありました。

問 13-3. もしそのとき知っていれば利用したかった支援内容についてあてはまるものすべてを選んでください。(当時、支援を必要としなかった方は、「特に支援を必要としていなかった」を回答)

※問 13-2 で「⑦特に何も利用していない」と回答した方のみ回答

選択項目	回答数 (件)
①医師やカウンセラーなど心の健康に関する専門家への相談	19
②こころの健康相談統一ダイヤルなどの電話や SNS の相談	12
③遺族会などの団体が開催する自死遺族の集まり (分かち合いの会)	1
④損害賠償請求などの法律問題に関する専門家への相談	1
⑤報道等によるプライバシー侵害や、誹謗中傷などの人権擁護に関する専門機関への相談	3
⑥特に支援を必要としていなかった	61
⑦その他	1
合計	98

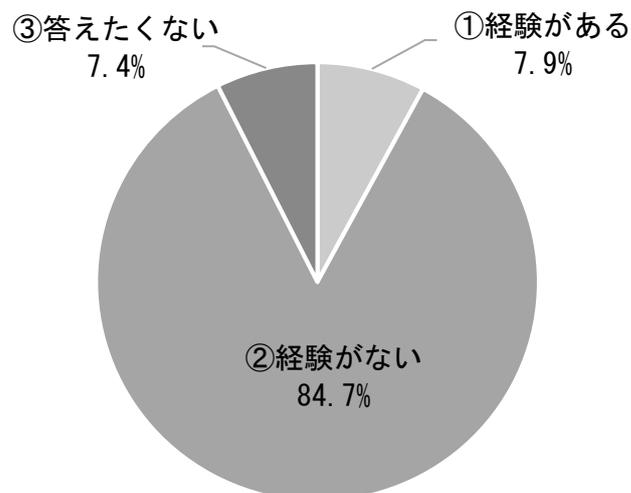


【考察】

「特に支援を必要としていなかった」が 61 人と最も多かったが、利用したかった支援としては、「医師やカウンセラーなど心の健康に関する専門家への相談」(19 人)、「こころの健康相談統一ダイヤル」などの電話や SNS の相談」(12 人)などが挙がり、約 4 割が専門家への相談など積極的な支援を希望されていた。

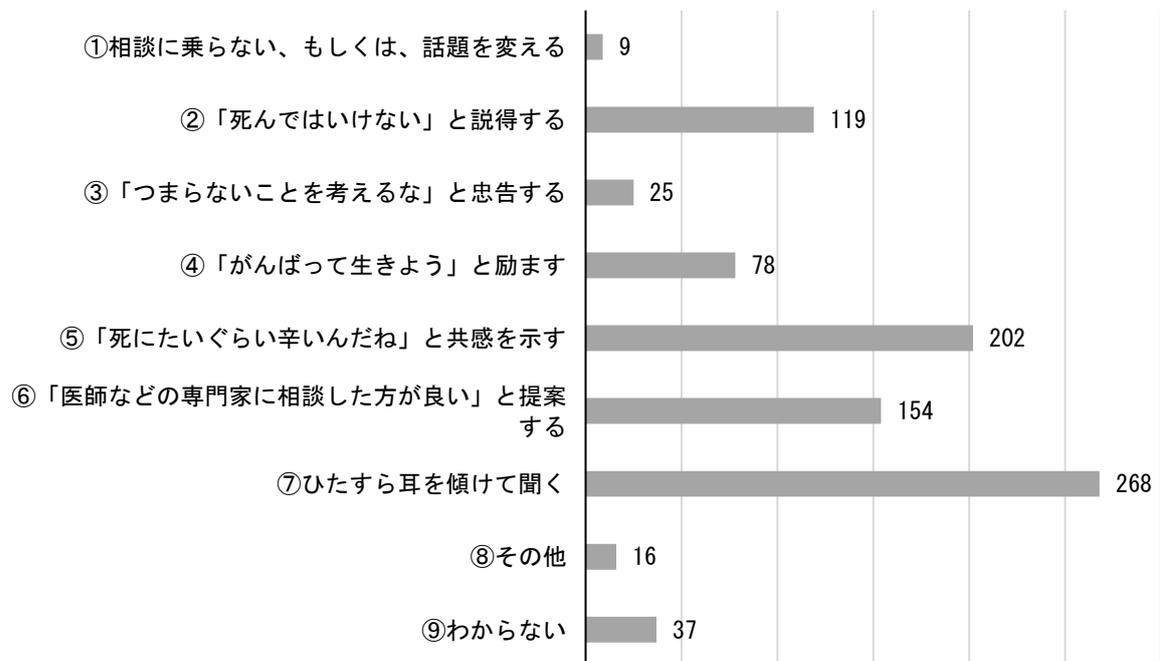
問 14. これまでに自ら命を絶とうとした経験がありますか。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①経験がある	33	7.9
②経験がない	353	84.7
③答えたくない	31	7.4
合計	417	



問 15 あなたは、もしも身近な人から「死にたい」と打ち明けられたとき、どう対応するのが良いと思いますか。あてはまるものすべてを選んでください。

選択項目	回答数 (件)
①相談に乗らない、もしくは、話題を変える	9
②「死んではいけない」と説得する	119
③「つまらないことを考えるな」と忠告する	25
④「がんばって生きよう」と励ます	78
⑤「死にたいぐらい辛いんだね」と共感を示す	202
⑥「医師などの専門家に相談した方が良い」と提案する	154
⑦ひたすら耳を傾けて聞く	268
⑧その他	16
⑨わからない	37
合計	908



【考察】

身近な人に相談されたときには、その人に寄り添うような対応をとることや医師などの専門家につなげたりする方が良いと考えている人が多いことがわかる。

【問 16～問 17 にご回答いただく前に、以下をお読みください。】

以下に挙げた症状を「うつ病のサイン」といいます。
このような症状が2週間以上続く場合、うつ病の可能性がります。

「うつ病のサイン」

○ 自分で感じる症状

気分が沈む、悲しい、イライラする、集中力がない、好きなこともやりたくない、大事なことを先送りする、物事を悪いほうへ考える、決断ができない、自分を責める、死にたくなる

○ 周りから見てわかる症状

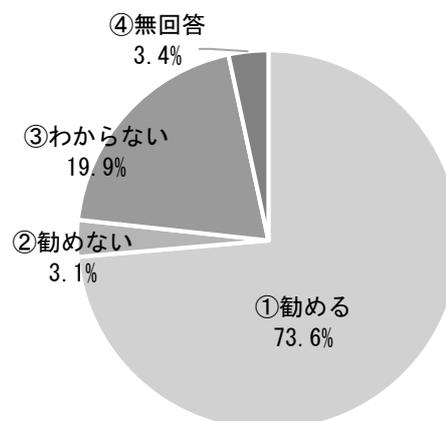
表情が暗い、涙もろい、反応が遅い、落ち着きがない、飲酒量が増える

○ 身体に出る症状

眠れない、食欲がない、便秘がち、身体がだるい、疲れやすい、性欲がない、頭痛、動悸、胃の不快感、めまい

問 16. もし仮に、あなたが家族など身近な人の「うつ病のサイン」に気づいたとき、専門の相談窓口へ相談することを勧めますか。

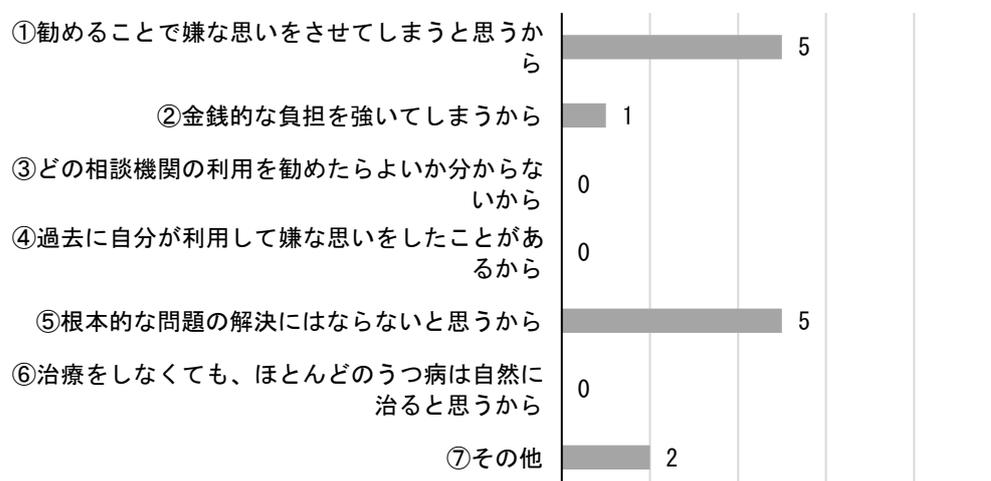
選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①勧める	307	73.6
②勧めない	13	3.1
③わからない	83	19.9
④無回答	14	3.4
合計	417	



問 16-1. 医療機関などの専門の相談窓口へ相談することを勧めないのはなぜですか。以下の中であてはまるものすべてを選んでください。

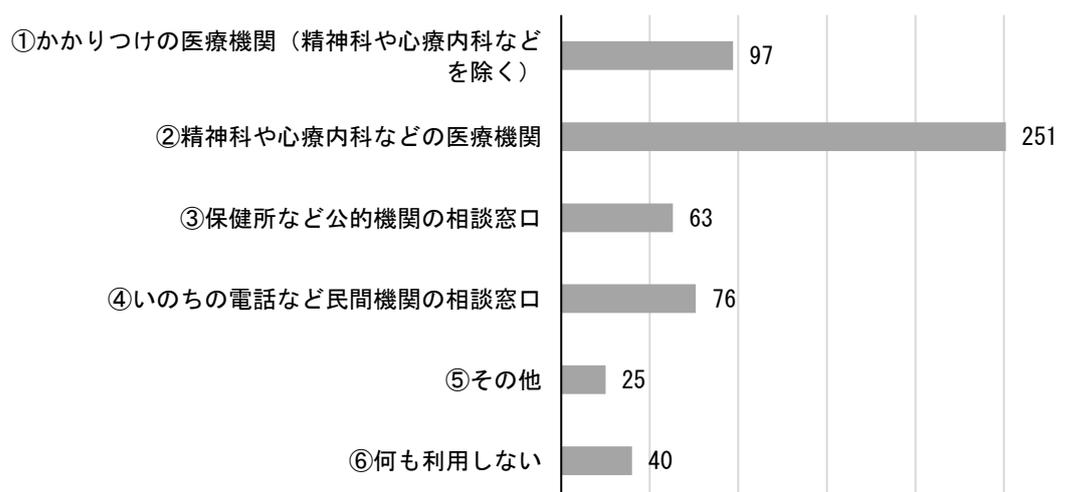
※問 16 で「②勧めない」と回答した方のみ回答

選択項目	回答数 (件)
①勧めることで嫌な思いをさせてしまうと思うから	5
②金銭的な負担を強いてしまうから	1
③どの相談機関の利用を勧めたらよいか分からないから	0
④過去に自分が利用して嫌な思いをしたことがあるから	0
⑤根本的な問題の解決にはならないと思うから	5
⑥治療をしなくても、ほとんどのうつ病は自然に治ると思うから	0
⑦その他	2
合計	13



問 17. もし仮に、自分自身の「うつ病のサイン」に気づいたとき、あなたは以下の専門の相談窓口のうち、どれを利用したいと思いますか。あてはまるものすべてを選んでください。

選択項目	回答数 (件)
①かかりつけの医療機関（精神科や心療内科などを除く）	97
②精神科や心療内科などの医療機関	251
③保健所など公的機関の相談窓口	63
④いのちの電話など民間機関の相談窓口	76
⑤その他	25
⑥何も利用しない	40
合計	552

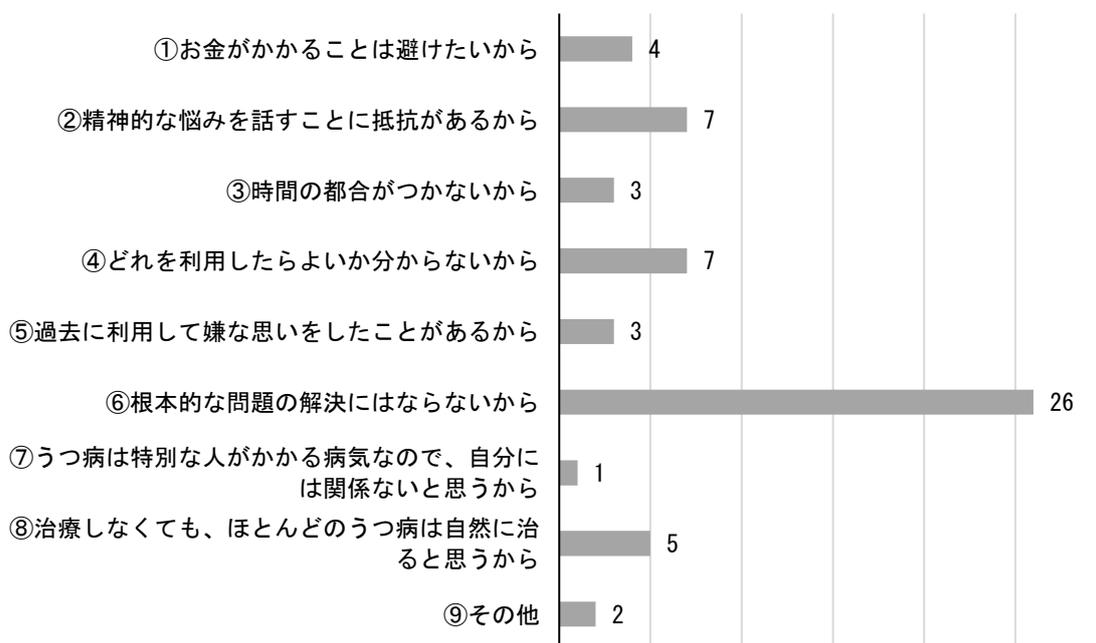


【考察】

専門の相談窓口への相談先としては、精神科や心療内科などの医療機関や、かかりつけの医療機関（精神科や心療内科などを除く）を選ぶ人が多い。これは、「うつ病のサイン」が現れた際にその状態を精神疾患（疑いも含む）として捉え、治療が必要であると考えられているためと思われる。

問 17-1. 問 17 で「⑥何も利用しない」と答えた理由はなぜですか。あてはまるものすべてを選んでください。

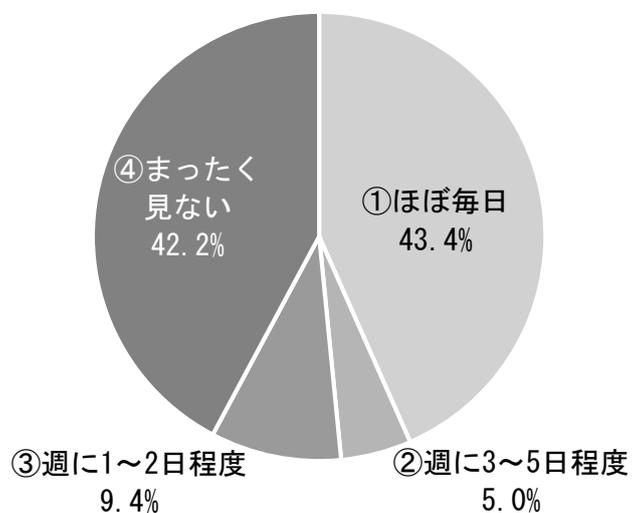
選択項目	回答数 (件)
①お金がかかることは避けたいから	4
②精神的な悩みを話すことに抵抗があるから	7
③時間の都合がつかないから	3
④どれを利用したらよいか分からないから	7
⑤過去に利用して嫌な思いをしたことがあるから	3
⑥根本的な問題の解決にはならないから	26
⑦うつ病は特別な人がかかる病気なので、自分には関係ないと思うから	1
⑧治療しなくても、ほとんどのうつ病は自然に治ると思うから	5
⑨その他	2
合計	58



【メディア（新聞・テレビ・ラジオなどの情報媒体）について】

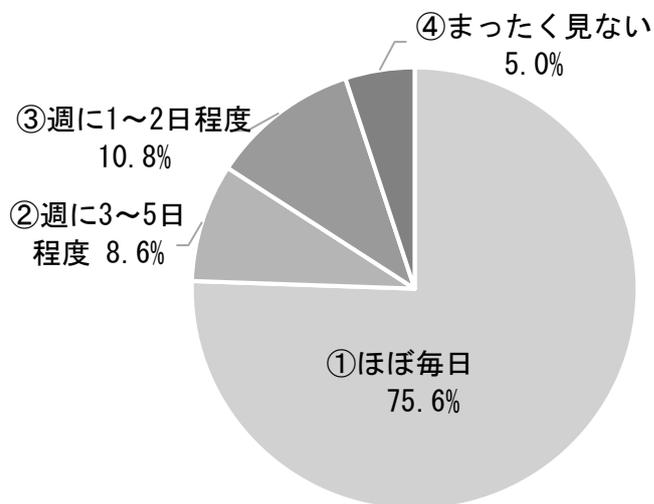
問 18-1. 普段、仕事や学業以外で、新聞をどのくらい見ますか。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①ほぼ毎日	181	43.4
②週に3～5日程度	21	5.0
③週に1～2日程度	39	9.4
④まったく見ない	176	42.2
合計	417	



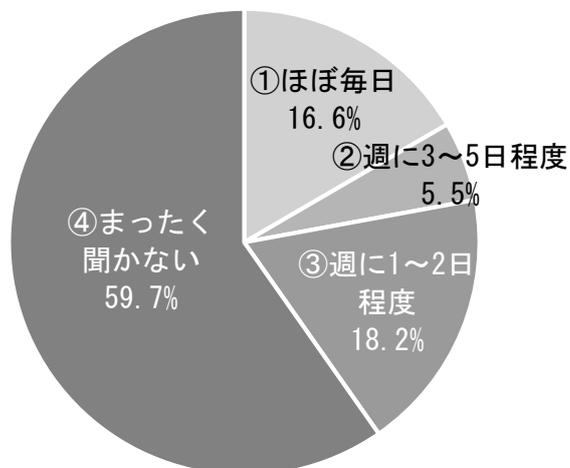
問 18-2. 普段、仕事や学業以外で、テレビをどのくらい見ますか。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①ほぼ毎日	315	75.6
②週に3～5日程度	36	8.6
③週に1～2日程度	45	10.8
④まったく見ない	21	5.0
合計	417	



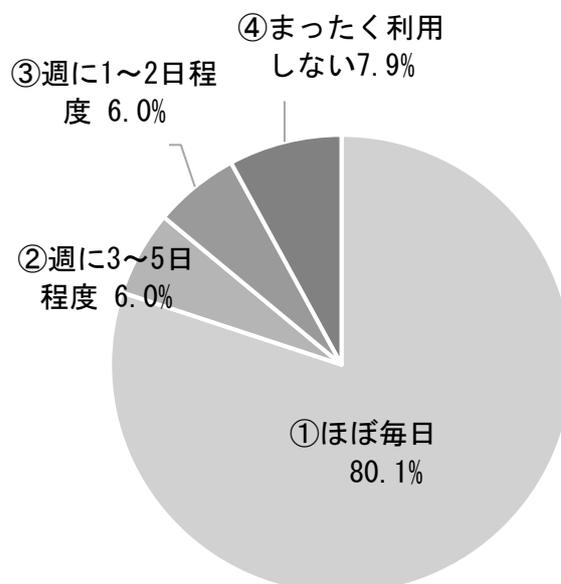
問 18-3. 普段、仕事や学業以外で、ラジオをどのくらい聞きますか。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①ほぼ毎日	69	16.6
②週に3~5日程度	23	5.5
③週に1~2日程度	76	18.2
④まったく聞かない	249	59.7
合計	417	



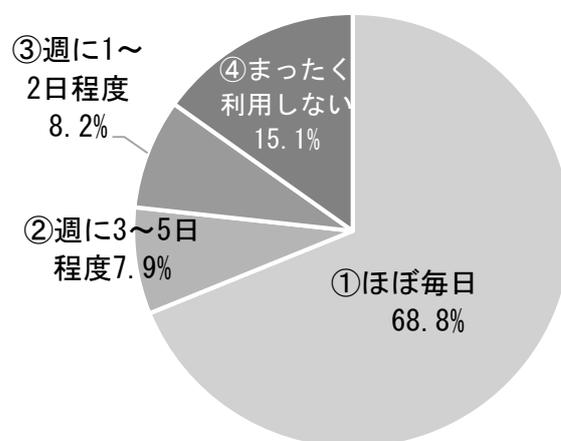
問 18-4. 普段、仕事や学業以外で、インターネットをどれくらい利用しますか。
(SNS (LINE、Facebook、Twitter など) は除いてお答えください。)

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①ほぼ毎日	334	80.1
②週に3~5日程度	25	6.0
③週に1~2日程度	25	6.0
④まったく利用しない	33	7.9
合計	417	



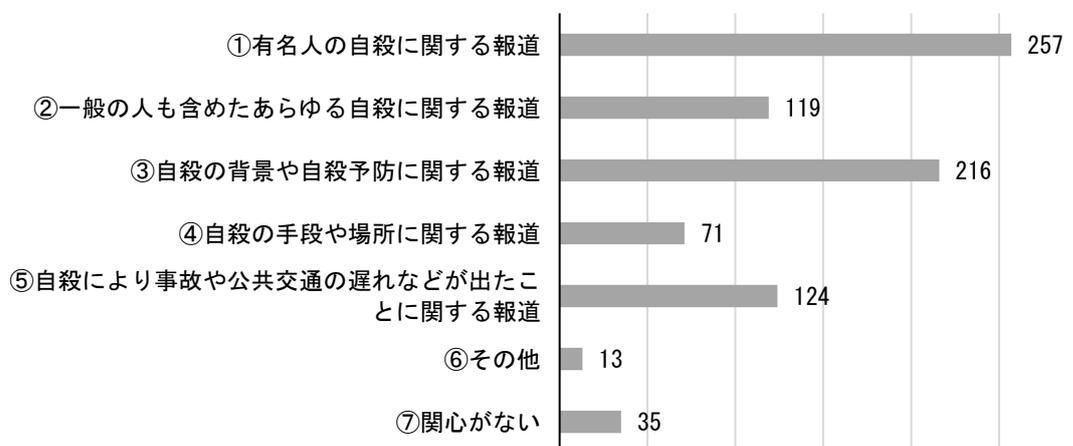
問 18-5. 普段、仕事や学業以外で、SNS（LINE、Facebook、Twitter など）をどのくらい利用しますか。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①ほぼ毎日	287	68.8
②週に3～5日程度	33	7.9
③週に1～2日程度	34	8.2
④まったく利用しない	63	15.1
合計	417	



問 19-(1). 自殺を扱ったどのような報道に関心がありますか。あてはまるものすべてを選んでください。

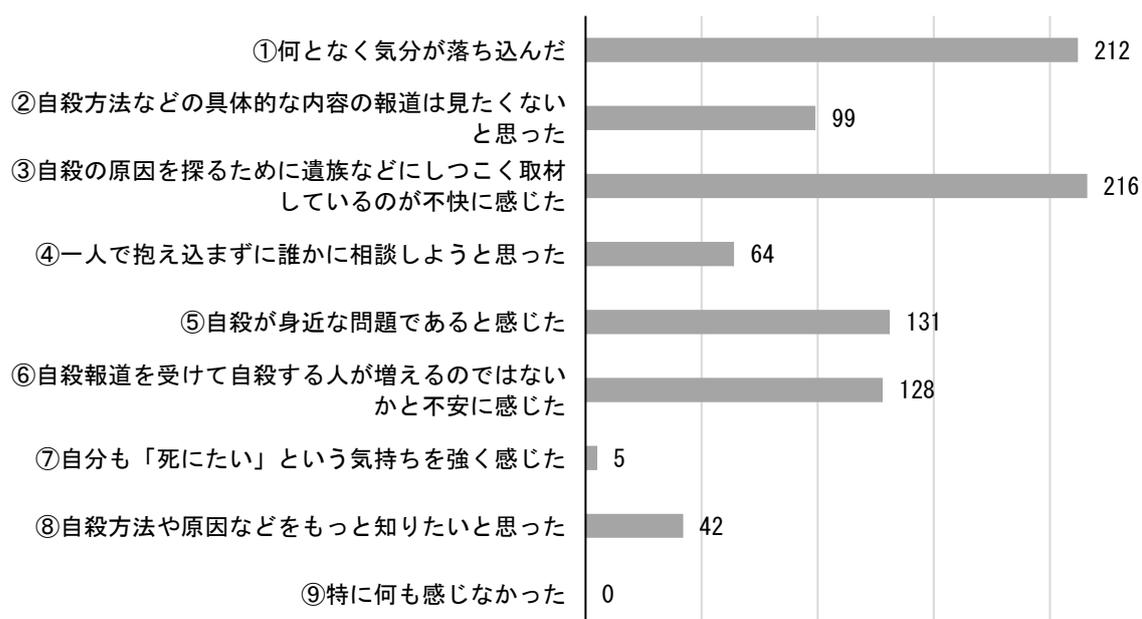
選択項目	回答数 (件)
①有名人の自殺に関する報道	257
②一般の人も含めたあらゆる自殺に関する報道	119
③自殺の背景や自殺予防に関する報道	216
④自殺の手段や場所に関する報道	71
⑤自殺により事故や公共交通の遅れなどが出たことに関する報道	124
⑥その他	13
⑦関心がない	35
合計	835



「⑥その他」には、「民間の取り組み・政策・社会問題に関する報道（貧困、イジメ、等々）」「イジメやパワハラなどに起因する自殺」などがありました。

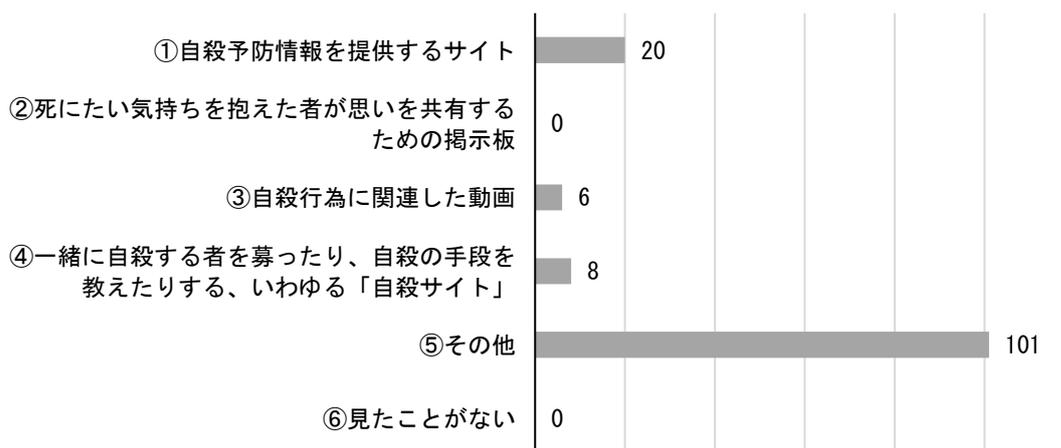
問 19-(2)．自殺を扱った報道についてどのように感じますか。あてはまるものすべてを選んでください。

選択項目	回答数 (件)
①何となく気分が落ち込んだ	212
②自殺方法などの具体的な内容の報道は見たくないと思った	99
③自殺の原因を探るために遺族などにしつこく取材しているのが不快に感じた	216
④一人で抱え込まずに誰かに相談しようと思った	64
⑤自殺が身近な問題であると感じた	131
⑥自殺報道を受けて自殺する人が増えるのではないかと不安に感じた	128
⑦自分も「死にたい」という気持ちを強く感じた	5
⑧自殺方法や原因などをもっと知りたいと思った	42
⑨特に何も感じなかった	0
合計	897



問 20. インターネット上にある自殺に関連する様々なサイトを積極的に見たことがありますか。以下の中で見たことがあるものすべてを選んでください。

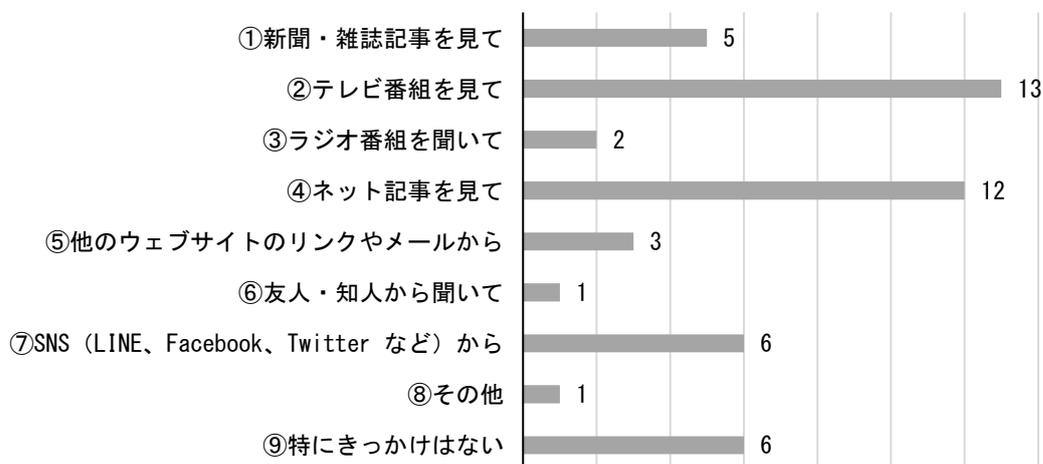
選択項目	回答数 (件)
①自殺予防情報を提供するサイト	20
②死にたい気持ちを抱えた者が思いを共有するための掲示板	0
③自殺行為に関連した動画	6
④一緒に自殺する者を募ったり、自殺の手段を教えたりする、いわゆる「自殺サイト」	8
⑤その他	101
⑥見たことがない	0
合計	135



問 20-1. あなたは、どのようなきっかけで【問 20】で答えられたサイトを開いてみましたか。以下の中であてはまるものすべてを選んでください。

※問 20 で「①自殺予防情報を提供するサイト」から「⑤その他」のいずれかを選択した方のみ回答

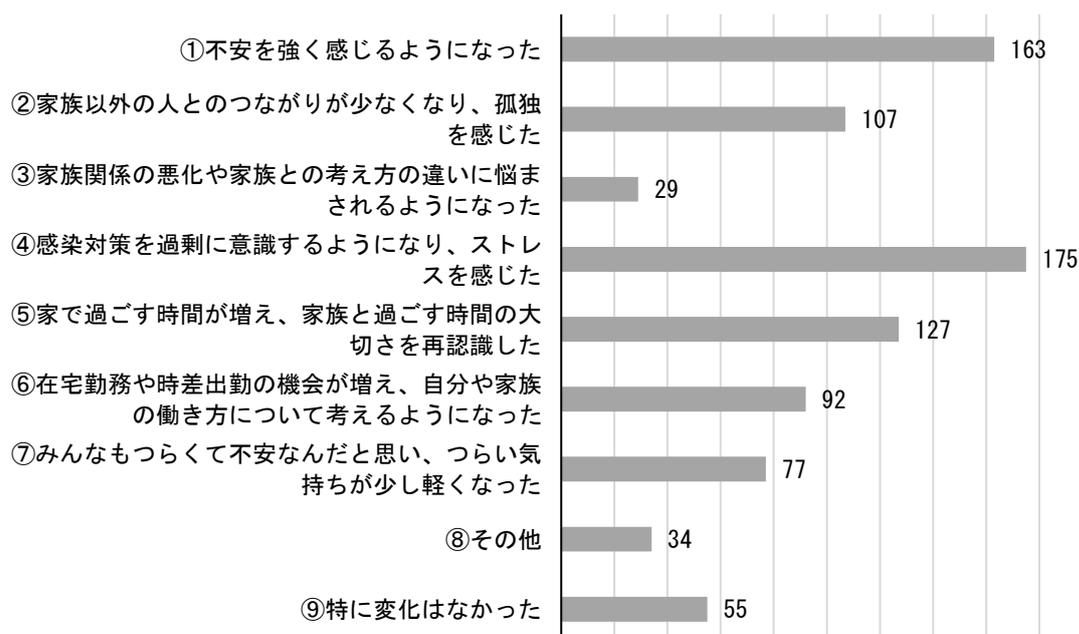
選択項目	回答数 (件)
①新聞・雑誌記事を見て	5
②テレビ番組を見て	13
③ラジオ番組を聞いて	2
④ネット記事を見て	12
⑤他のウェブサイトのリンクやメールから	3
⑥友人・知人から聞いて	1
⑦SNS (LINE、Facebook、Twitter など) から	6
⑧その他	1
⑨特にきっかけはない	6
合計	49



【新型コロナウイルス感染症について】

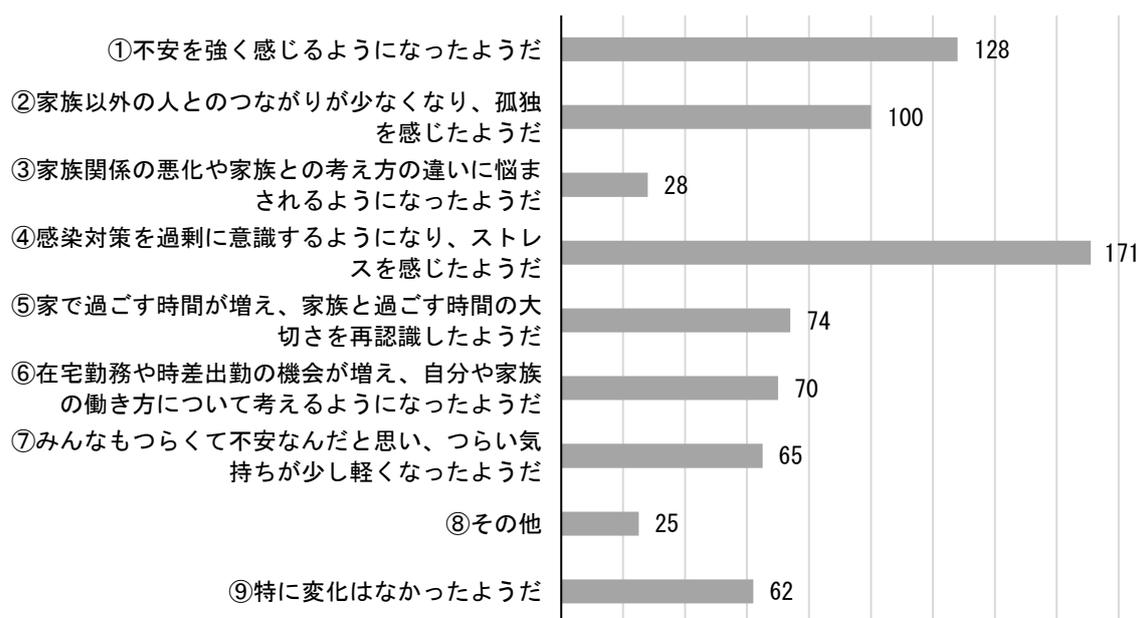
問 21. 新型コロナウイルス感染症流行以降、あなたの心情や考えに変化がありましたか。コロナ流行から回答時点までのあなたの気持ちについて、以下の中であてはまるものすべてを選んでください。

選択項目	回答数 (件)
①不安を強く感じるようになった	163
②家族以外の人とのつながりが少なくなり、孤独を感じた	107
③家族関係の悪化や家族との考え方の違いに悩まされるようになった	29
④感染対策を過剰に意識するようになり、ストレスを感じた	175
⑤家で過ごす時間が増え、家族と過ごす時間の大切さを再認識した	127
⑥在宅勤務や時差出勤の機会が増え、自分や家族の働き方について考えるようになった	92
⑦みんなもつらくて不安なんだと思い、つらい気持ちが少し軽くなった	77
⑧その他	34
⑨特に変化はなかった	55
合計	859



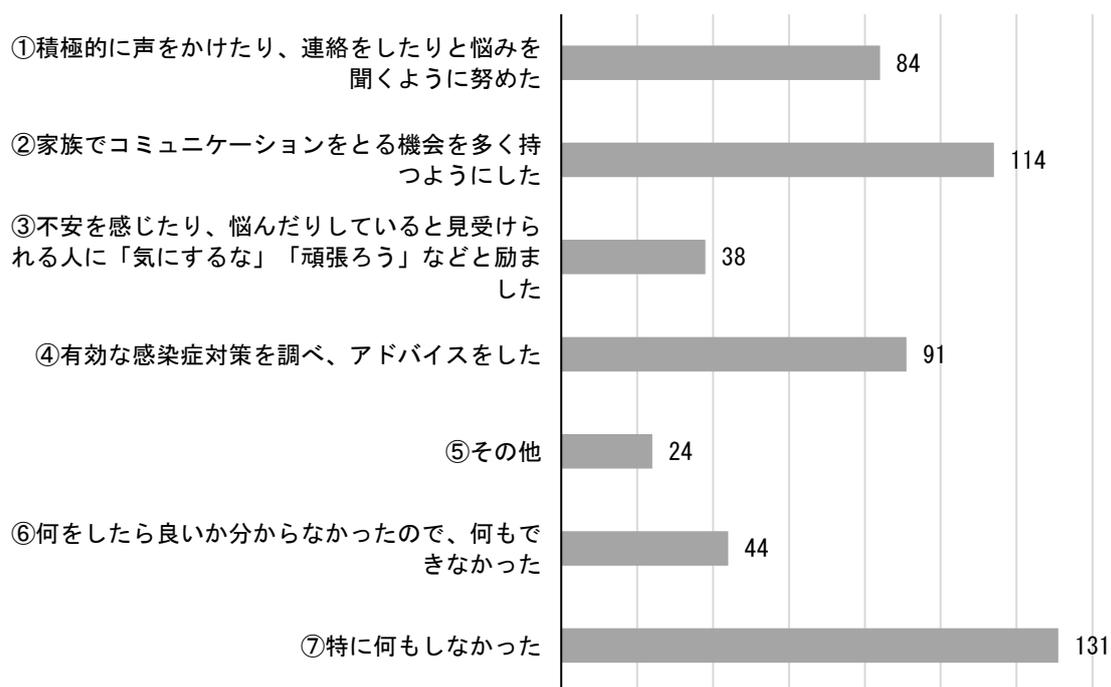
問 22. 新型コロナウイルス感染症流行以降、あなたの家族や友人・知人など、身近な人の心情や考えに変化があったと感じますか。以下の中であてはまるものすべてを選んでください。

選択項目	回答数 (件)
①不安を強く感じるようになったようだ	128
②家族以外の人とのつながりが少なくなり、孤独を感じたようだ	100
③家族関係の悪化や家族との考え方の違いに悩まされるようになったようだ	28
④感染対策を過剰に意識するようになり、ストレスを感じたようだ	171
⑤家で過ごす時間が増え、家族と過ごす時間の大切さを再認識したようだ	74
⑥在宅勤務や時差出勤の機会が増え、自分や家族の働き方について考えるようになったようだ	70
⑦みんなもつらくて不安なんだと思い、つらい気持ちが少し軽くなったようだ	65
⑧その他	25
⑨特に変化はなかったようだ	62
合計	723



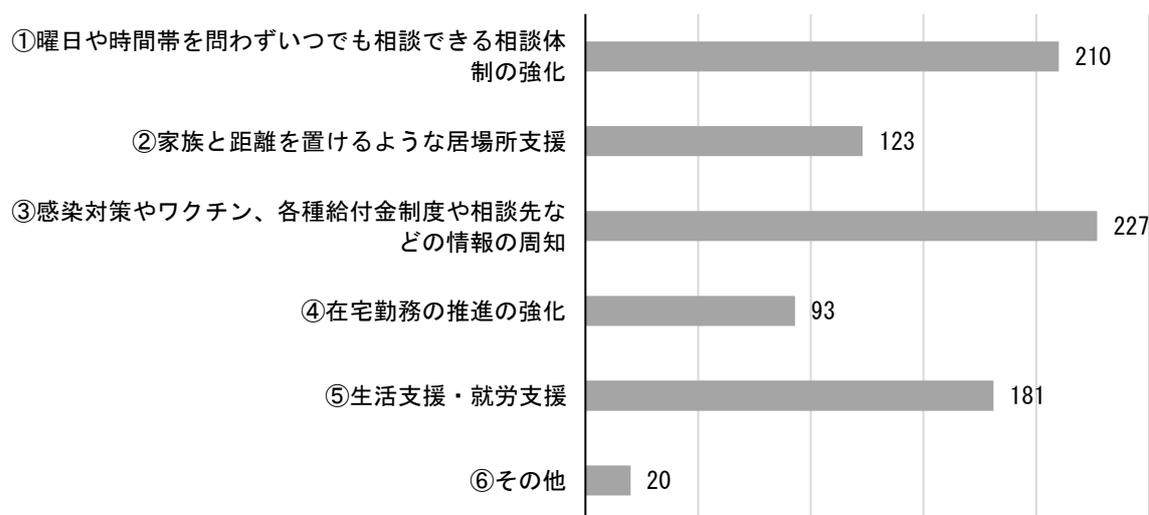
問 23. コロナ禍における身近な人の心情や考えの変化に対し、具体的な行動を起こしましたか。以下の中であてはまるものすべてを選んでください。

選択項目	回答数 (件)
①積極的に声をかけたり、連絡をしたりと悩みを聞くように努めた	84
②家族でコミュニケーションをとる機会を多く持つようにした	114
③不安を感じたり、悩んだりしていると見受けられる人に「気にするな」「頑張ろう」などと励ました	38
④有効な感染症対策を調べ、アドバイスをした	91
⑤その他	24
⑥何をしたら良いか分からなかったので、何もできなかった	44
⑦特に何もしなかった	131
合計	526



問 24. コロナ禍での心情や考えの変化に伴い、どのような支援や対策が必要だと思いますか。以下の中であてはまるものすべてを選んでください。

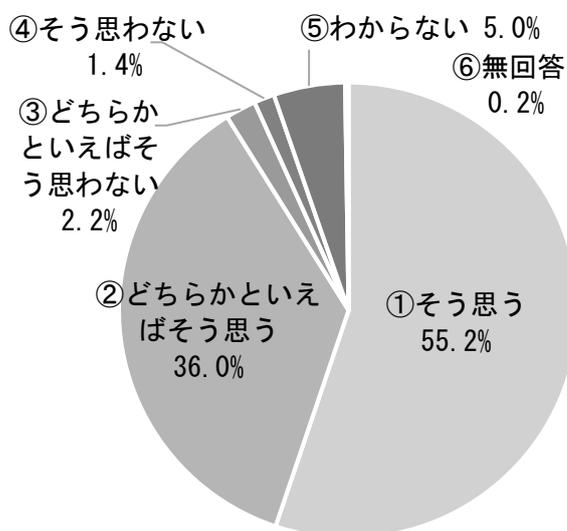
選択項目	回答数 (件)
①曜日や時間帯を問わずいつでも相談できる相談体制の強化	210
②家族と距離を置けるような居場所支援	123
③感染対策やワクチン、各種給付金制度や相談先などの情報の周知	227
④在宅勤務の推進の強化	93
⑤生活支援・就労支援	181
⑥その他	20
合計	854



【今後の自殺対策について】

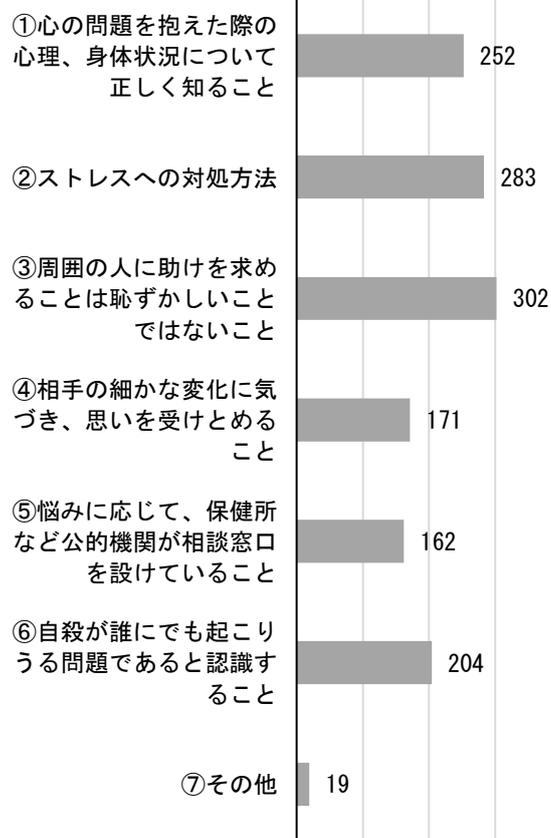
問 25. 子ども・若者が自殺予防について学ぶ機会があった方がよいと思いますか。最も近い考えを1つ選んでください。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①そう思う	230	55.2
②どちらかといえば そう思う	150	36.0
③どちらかといえば そう思わない	9	2.2
④そう思わない	6	1.4
⑤わからない	21	5.0
⑥無回答	1	0.2
合計	417	



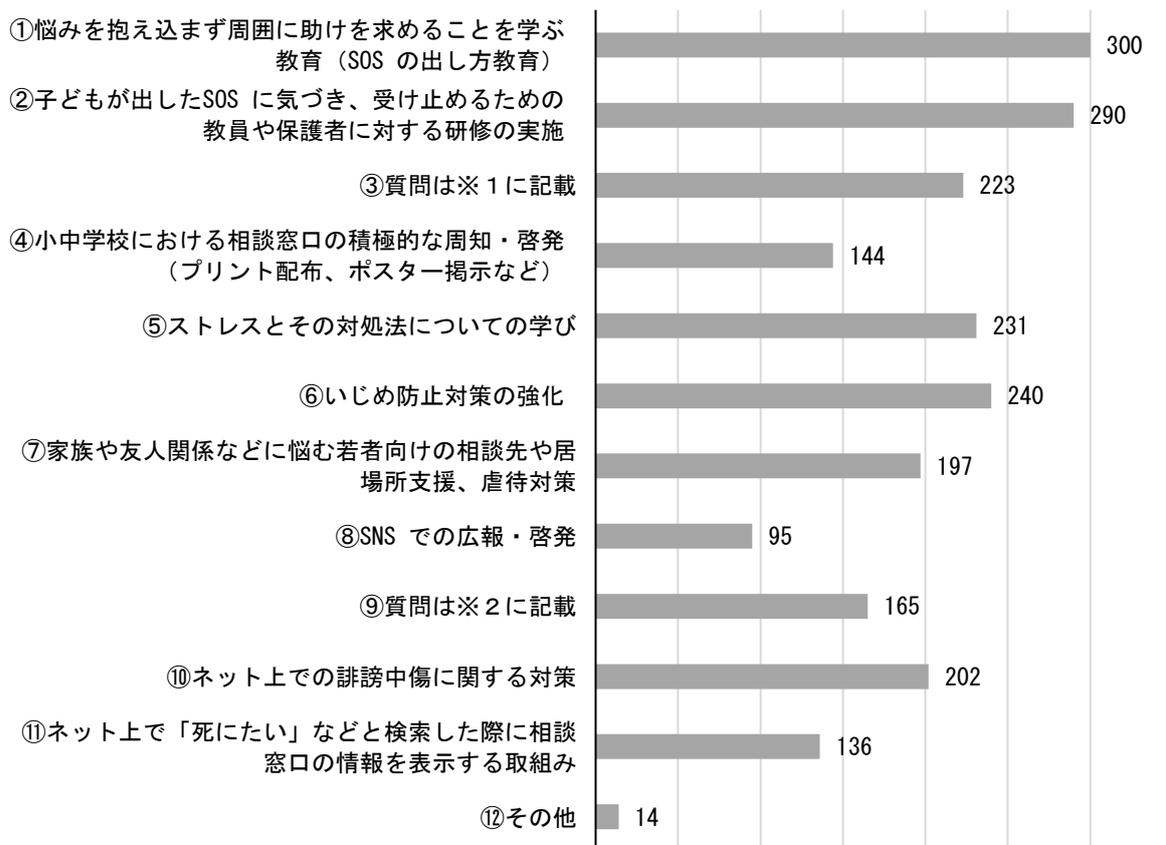
問 26. 子ども・若者の段階において、どのようなことを学べば、自殺予防につながると思いますか。あてはまるものすべてを選んでください。

選択項目	回答数 (件)
①心の問題を抱えた際の心理、身体状況について正しく知ること	252
②ストレスへの対処方法	283
③周囲の人に助けを求めることは恥ずかしいことではないこと	302
④相手の細かな変化に気づき、思いを受けとめること	171
⑤悩みに応じて、保健所など公的機関が相談窓口を設けていること	162
⑥自殺が誰にでも起こりうる問題であると認識すること	204
⑦その他	19
合計	1,393



問 27. 今後求められるものとして、どのような子ども・若者向けの自殺対策が有効であると思いますか。あてはまるものすべてを選んでください。

選択項目	回答数 (件)
①悩みを抱え込まず周囲に助けを求めることを学ぶ教育（SOS の出し方教育）	300
②子どもが出した SOS に気づき、受け止めるための教員や保護者に対する研修の実施	290
③小中学校における、児童・生徒に対するゲートキーパー（自殺のサインに気づき、適切な対応をとる人）研修の実施	223
④小中学校における相談窓口の積極的な周知・啓発（プリント配布、ポスター掲示など）	144
⑤ストレスとその対処法についての学び	231
⑥いじめ防止対策の強化	240
⑦家族や友人関係などに悩む若者向けの相談先や居場所支援、虐待対策	197
⑧SNS での広報・啓発	95
⑨ネットパトロール（一緒に自殺する者を募ったり、自殺の手段を教えたりするネット上での書き込みや、自殺の動画等を配信した者に対する取り締まり）	165
⑩ネット上での誹謗中傷に関する対策	202
⑪ネット上で「死にたい」などと検索した際に相談窓口の情報を表示するしくみ	136
⑫その他	14
合計	2,237



※1 ③小中学校における、児童・生徒に対するゲートキーパー（自殺のサインに気づき、適切な対応をとる人）研修の実施

※2 ⑨ネットパトロール（一緒に自殺する者を募ったり、自殺の手段を教えたりするネット上での書き込みや、自殺の動画等を配信した者に対する取り締まり）

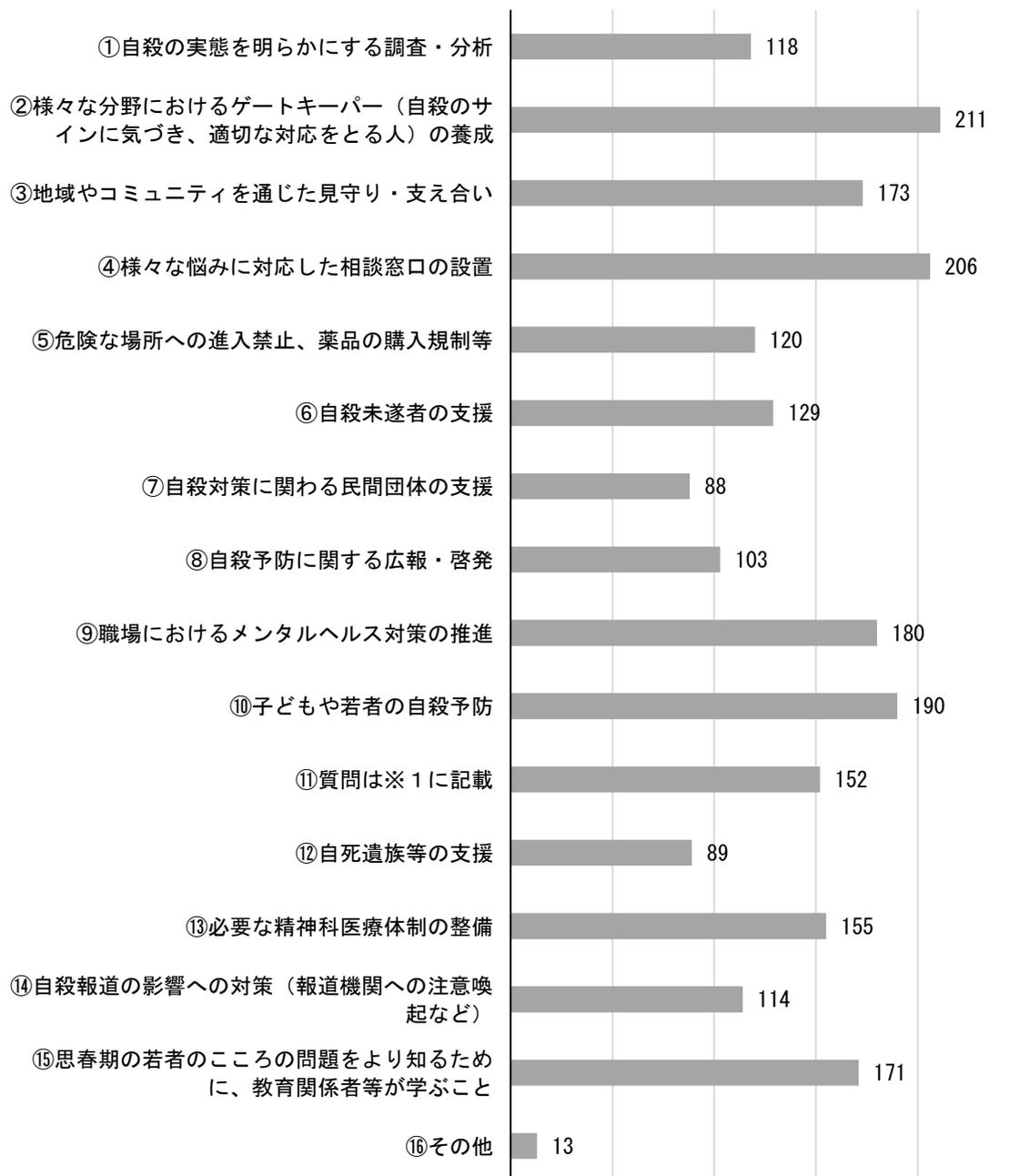
【考察】

「悩みを抱え込まず周囲に助けを求めることを学ぶ教育（SOS の出し方教育）」（300 人）や「子どもが出した SOS に気づき、受け止めるための教員や保護者に対する研修の実施」（290 人）が自殺対策に有効であるとの回答が多かった。

「⑤ストレスとその対策法についての学び」、「⑥いじめ防止対策の強化」を求める声も多いことから、多方面からの対策が求められている状況である。

問 28. 今後求められるものとして、どのような自殺対策が有効であると思いますか。あてはまるものすべてを選んでください。

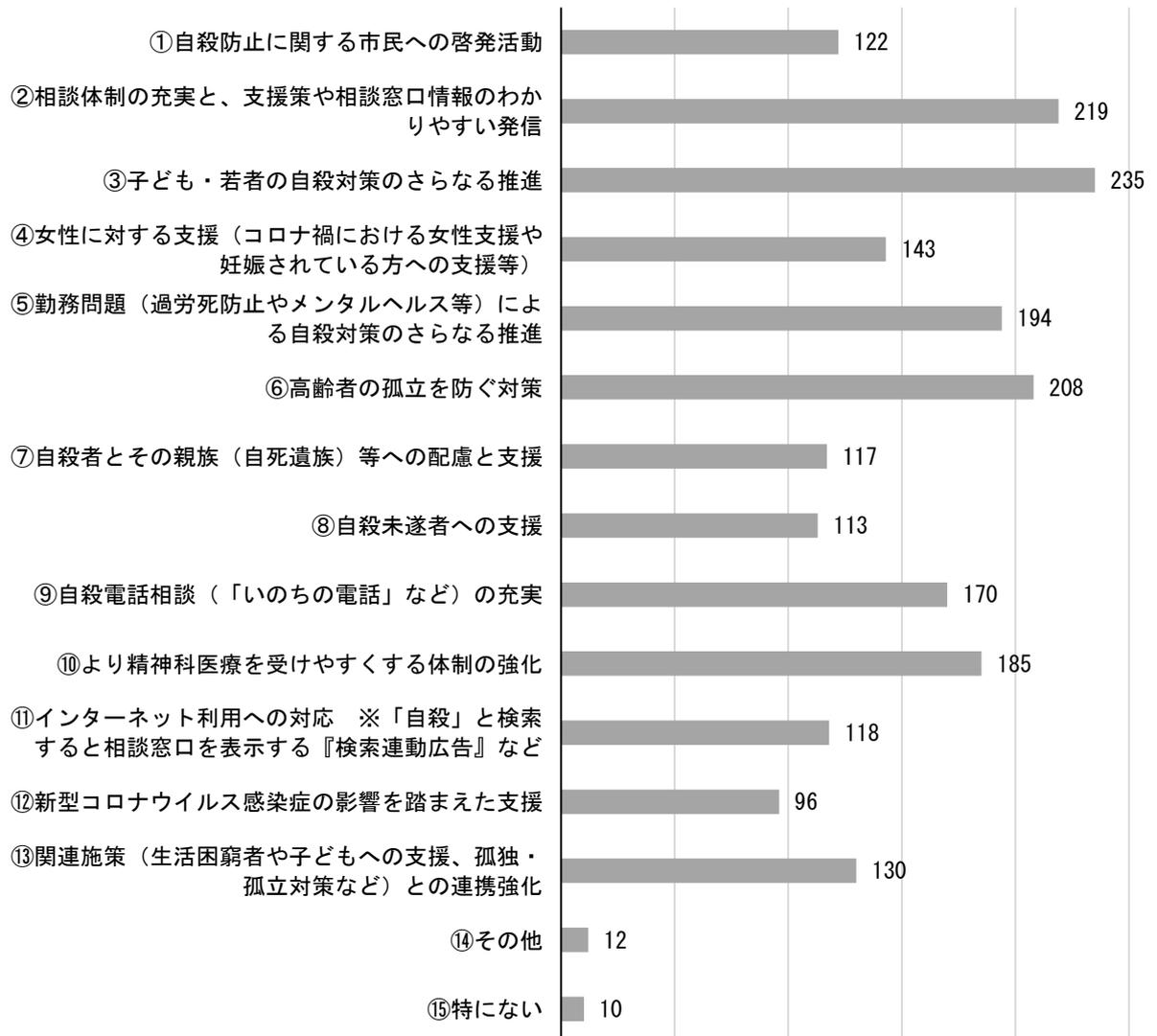
選択項目	回答数 (件)
①自殺の実態を明らかにする調査・分析	118
②様々な分野におけるゲートキーパー（自殺のサインに気づき、適切な対応をとる人）の養成	211
③地域やコミュニティを通じた見守り・支え合い	173
④様々な悩みに対応した相談窓口の設置	206
⑤危険な場所への進入禁止、薬品の購入規制等	120
⑥自殺未遂者の支援	129
⑦自殺対策に関わる民間団体の支援	88
⑧自殺予防に関する広報・啓発	103
⑨職場におけるメンタルヘルス対策の推進	180
⑩子どもや若者の自殺予防	190
⑪ネットパトロール（一緒に自殺する者を募ったり、自殺の手段を教えたりするネット上での書き込みや、自殺の動画等を配信した者に対する取り締まり）	152
⑫自死遺族等の支援	89
⑬必要な精神科医療体制の整備	155
⑭自殺報道の影響への対策（報道機関への注意喚起など）	114
⑮思春期の若者のこころの問題をより知るために、教育関係者等が学ぶこと	171
⑯その他	13
合計	2,212



※1 ⑪ネットパトロール（一緒に自殺する者を募ったり、自殺の手段を教えたりするネット上での書き込みや、自殺の動画等を配信した者に対する取り締まり）

問 29. 今後の自殺対策として、あなたが大切だと思うことはどのようなことですか。あてはまるものすべてを選んでください。

選択項目	回答数 (件)
①自殺防止に関する市民への啓発活動	122
②相談体制の充実と、支援策や相談窓口情報のわかりやすい発信	219
③子ども・若者の自殺対策のさらなる推進	235
④女性に対する支援（コロナ禍における女性支援や妊娠されている方への支援等）	143
⑤勤務問題（過労死防止やメンタルヘルス等）による自殺対策のさらなる推進	194
⑥高齢者の孤立を防ぐ対策	208
⑦自殺者とその親族（自死遺族）等への配慮と支援	117
⑧自殺未遂者への支援	113
⑨自殺電話相談（「いのちの電話」など）の充実	170
⑩より精神科医療を受けやすくする体制の強化	185
⑪インターネット利用への対応 ※「自殺」と検索すると相談窓口を表示する『検索連動広告』など	118
⑫新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた支援	96
⑬関連施策（生活困窮者や子どもへの支援、孤独・孤立対策など）との連携強化	130
⑭その他	12
⑮特にない	10
合計	2,072



～「こころの体温計」～こころの健康をチェック～

簡単な質問に答えるだけで、ストレス度や落ち込み度などのこころの状態をウェブ上でチェックできるシステムです。パソコン・スマホからアクセスできます。

枚方市 こころの体温計

検索



【注意事項】

- ・「こころの体温計」は医学的診断をするものではありません。
- ・利用料は無料です。ただし通信費は自己負担となります。
- ・個人情報は一切取得しません。

ひらかた いのちのホットライン

眠れない、もう頑張れない、生きることがつらい…
いろいろな悩みや、誰にも言えない気持ちを安心して話せる場です。あなたの気持ちを話してみませんか？

ひらかた いのちのホットライン



名前を名乗る必要はありません。秘密は厳守します。

TEL 072-861-1234

月・水・金曜日 午後1時～午後8時

こころの健康相談統一ダイヤル

「つらい・・・」「どうしたらいいのかわからない・・・」そんな気持ちのときには、一人で抱え込まずにぜひお電話ください。

電話番号 (ナビダイヤル)	おこなおう	まもろうよ	こころ
	0 5 7 0	- 0 6 4	- 5 5 6

※一部のIP電話等からは接続できません。

※お住いの地域や発信される場所によっては、他府県につながる場合があります。

その場合は、『こころの電話相談 (06-6607-8814)』をご利用ください。

※月曜日から金曜日 午前9時30分から午後5時まで

※土・日・祝日、年末年始は除く

【まとめ】

問 6～8 の自殺対策については、「自死」という言葉を知っていた人は8割に上り、報道・SNS等により、広く言葉が浸透していること、また、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響による若年層での自殺者の増加がメディア等でも取り上げられる中で、自殺対策が自分自身に関わる問題であるという認識が高まっていることが推察されます。一方で、自殺対策に関する行政の取り組み（強化月間・法律・行動計画）の認知度は低くなっています。引き続き、啓発や相談窓口の周知が必要です。

問 9～10 の悩みの相談については、身近な人だからこそ悩みやストレスを相談しづらいという意見が高くなっており、「ひらかた いのちのホットライン」等をはじめとした電話や SNS 等を通じた相談先の周知に努めるなどが考えられます。

問 11～17 の自殺やうつについては、昨今のコロナ禍により自殺者数が増加している現状もあり、現在行っている新型コロナころのフリーダイヤルのような取り組みが求められています。また、うつ病のサインに気づいても何もしないと回答した方の主な理由が、相談しても根本的に解決しないからとなっており、相談窓口の周知とあわせて、専門機関へ相談することのハードルを下げる啓発等が重要であると考えられます。

問 18～20 のメディアとの接触については、年代によって主に利用する媒体に違いがあると思われることから、年代に応じて効果的に媒体を活用して啓発等を行っていくことが重要です。その他、インターネット上にある自殺に関連するサイトを積極的に閲覧したことがある人のうち、閲覧したきっかけでは「テレビ番組」や「ネット記事」が高くなっています。

問 21～24 の新型コロナウイルス感染症流行以降の変化については、「感染対策を過剰に意識するようになり、不安を感じるようになった」、「家族以外の人とのつながりが少なくなり、孤独を感じた」などがあり、それらへの対応（行動）として「家族でコミュニケーションをとる機会を持つようにした」、「積極的に声をかけたり、連絡をしたりと悩みを聞くよう努めた」など、人との関わりを持つとした人もおられました。一方、身近な人のために起こした具体的な行動では「特に何もしなかった」が最も高く、人と人との接触が制限された中、人とのつながりの希薄化が懸念されます。

また、必要な支援・対策では、制度や相談先など情報の周知、相談体制の強化、次に、生活支援・就労支援となっており、新型コロナウイルス感染症の拡大は、

ストレスや不安、孤独感をもたらしただけでなく、景気の悪化による失業、収入の減少といった就労・経済面にも大きな影響を及ぼしたことがうかがえます。

問 25～29 の今後の自殺対策のうち子ども・若者への自殺対策については、多くの方が必要性を認識しており、特に周囲へ助けを求めるといった外的な支援と、ストレスへの対処法といった内的な対処の両面での学びが重要という意見が多くなっています。子ども・若者の学びの場面に自殺対策を効果的に取り入れていくことが重要です。

以上のことを踏まえ、様々な観点から自殺対策を検討することが求められます。

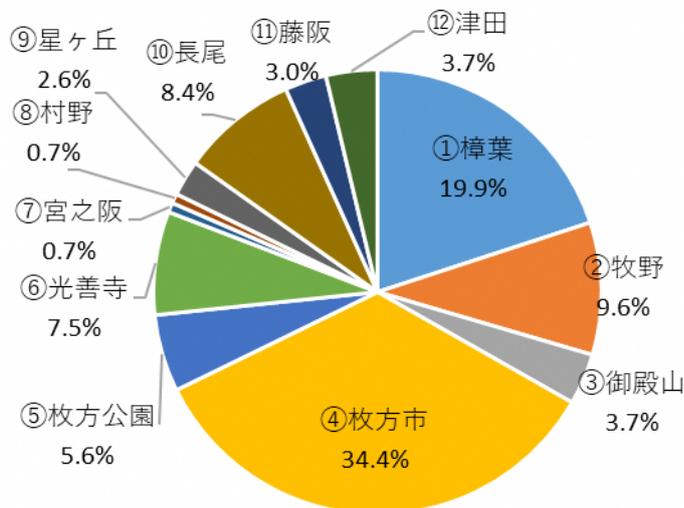
枚方市の交通施策の推進に関するアンケート

本市では、平成30年に将来都市像を見据えた交通施策として、「枚方市総合交通計画」を策定し、交通事業とまちづくりが連携した総合的かつ戦略的な交通施策の推進を図っているところです。

当該計画における施策の一つに、「駅周辺の回遊性と賑わい、愛着がもてる交通環境整備」を掲げており、駅前広場整備や駅のバリアフリー化の強化に取り組んでおります。当該計画に基づく事業成果について、市民の皆さまのご意見等をお聞きし、今後の交通施策の推進に向けて活用するため、アンケートを実施したものです。

問1. あなたが枚方市内で最もよく利用する駅はどれですか。あてはまる番号を1つ選んでください。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
① 樟葉駅	85	19.9%
② 牧野駅	41	9.6%
③ 御殿山駅	16	3.7%
④ 枚方市駅	147	34.4%
⑤ 枚方公園駅	24	5.6%
⑥ 光善寺駅	32	7.5%
⑦ 宮之阪駅	3	0.7%
⑧ 村野駅	3	0.7%
⑨ 星ヶ丘駅	11	2.6%
⑩ 長尾駅	36	8.4%
⑪ 藤阪駅	13	3.0%
⑫ 津田駅	16	3.7%
合 計	427	

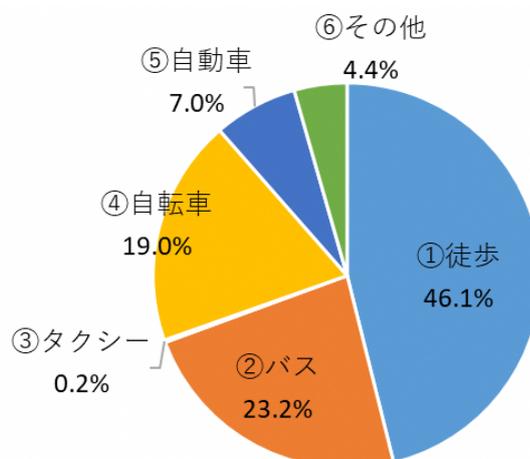


【考察】

「最もよく利用する駅」は、各駅の乗降客数の割合にほぼ一致した結果となっており、「④枚方市駅」が一番多く、次いで「①樟葉駅」、この2駅で回答者の半数を超え、また京阪沿線で約85%を占めています。JR片町線では「⑩長尾駅」が多くなっています。

問2. 問1で回答された駅までの主な交通手段は何ですか。主な交通手段の番号を1つ選んでください。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
① 徒歩	197	46.1%
② バス	99	23.2%
③ タクシー	1	0.2%
④ 自転車	81	19.0%
⑤ 自動車(送迎含む)	30	7.0%
⑥ その他	19	4.4%
合計	427	

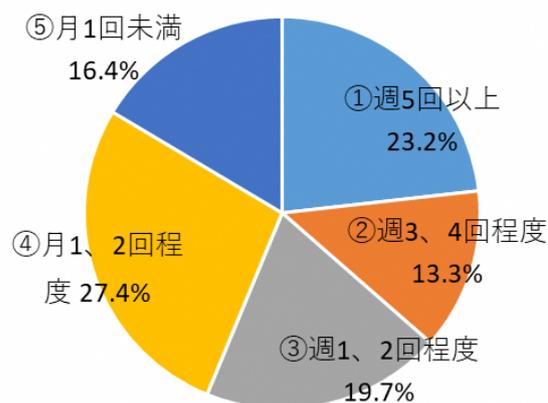


【考察】

駅アクセスの交通手段としては「①徒歩」が最も多く、次いで「②バス」「④自転車」の順であり、「⑥その他」はバイク、原付という内容となりました。回答者のうち駅から徒歩の範囲 46%の方が居住しているものとみられ、駅周辺における安心・安全面での配慮の必要性が高いことが分かりました。

問3. 問1で回答された駅および駅周辺の利用頻度はどれくらいですか。あてはまる番号を1つ選んでください。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
① 週5回以上	99	23.2%
② 週3、4回程度	57	13.3%
③ 週1、2回程度	84	19.7%
④ 月1、2回程度	117	27.4%
⑤ 月1回未満	70	16.4%
合計	427	

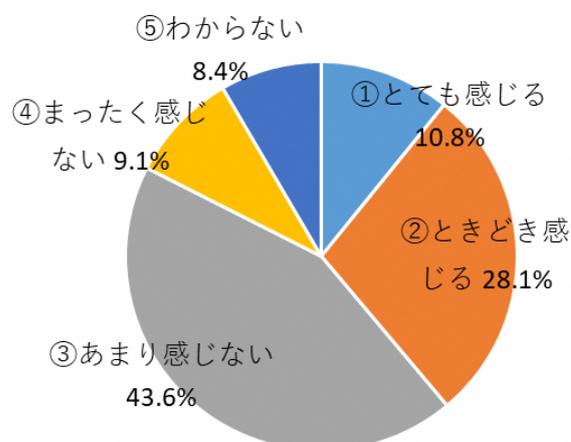


【考察】

最寄り駅の利用頻度は「④月1、2回程度」が一番多く、「①週5回以上」を上回った結果となっており、生産年齢人口の減少による定期券利用者の減少や、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からの外出抑制などの影響などが考えられます。

問4. 駅施設についてお聞きします。問1で回答された駅施設全体のバリアフリー化について、以前に比べてバリアフリー整備が進み、利用しやすくなったと感じますか。あてはまる番号を1つ選んでください。

選択項目	回答数(人)	割合(%)
① とても感じる	46	10.8%
② ときどき感じる	120	28.1%
③ あまり感じない	186	43.6%
④ まったく感じない	39	9.1%
⑤ わからない	36	8.4%
合計	427	

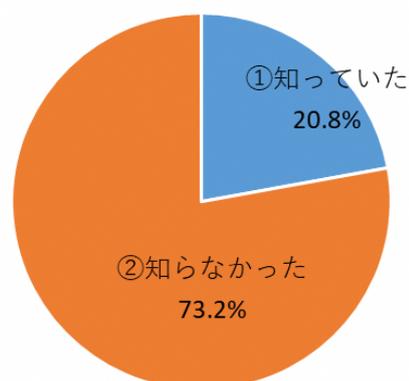


【考察】

バリアフリー化により利用しやすくなったと感じた回答者は①②あわせて38.9%、感じていないが③④あわせて52.7%となり、施設整備は着実に進んでいるものの、半数以上は利用しやすくなったとは感じていないことがわかりました。

問5. 鉄道駅のバリアフリー化の加速のため、国により2021年12月に都市部において新たな料金制度（以下、「鉄道駅バリアフリー料金制度」という。）が創設されたことをご存知ですか。あてはまる番号を1つ選んでください。

選択項目	回答数(人)	割合(%)
① 知っていた	89	20.8%
② 知らなかった	338	79.2%
合計	427	

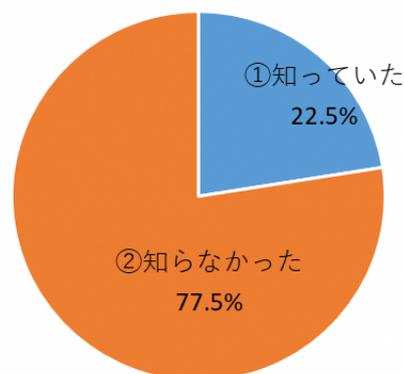


【考察】

「鉄道駅バリアフリー料金制度」が全国ニュース等で流れたこともあり、20.8%の回答者が本制度を知っていました。また、知らなかったという回答者も79.2%という結果であり、今後とも行政、事業者をはじめ社会全体として制度理解に努める必要があると考えられます。

問6. 鉄道事業者において、2023年4月1日から「鉄道駅バリアフリー料金制度」を活用し、鉄道施設のバリアフリー整備を加速させるため、料金設定を見直すことはご存知ですか。あてはまる番号を1つ選んでください。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
① 知っていた	96	22.5%
② 知らなかった	331	77.5%
合計	427	

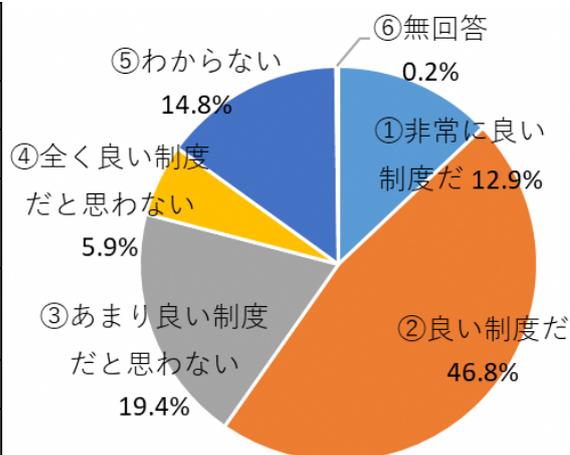


【考察】

料金設定の見直しについては「①知っていた」と答えた数値が、問5の制度を「①知っていた」の数値を上回っており、回答者にとって制度自体より運賃改定に敏感であることがわかりました。

問7. 鉄道駅バリアフリー料金制度について、どのように思いますか。あてはまる番号を1つ選んでください。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
① 非常に良い制度だ	55	12.9%
② 良い制度だ	200	46.8%
③ あまり良い制度だと思わない	83	19.4%
④ 全く良い制度だと思わない	25	5.9%
⑤ わからない	63	14.8%
⑥ 無回答	1	0.2%
合計	427	



【考察】

「①非常に良い制度だ」「②良い制度だ」の合計255件は、「③あまり良い制度だと思わない」「④全く良い制度だと思わない」の合計108件の倍以上の回答数となり、共生社会の実現に向けては、市民自らの負担も必要という意識が伺えます。

問8. 問7でそう思われた理由がある方はお答えください。

回答件数は 254 件

1. 問7で「①非常に良い制度だ」または「②良い制度だ」と回答した方の代表的な意見 (145 件)

- みんなで料金を負担してバリアフリー化が促進されるのはいいことだ
- 小さなお子さんや子連れの人にも安全に暮らせる社会になってほしいから
- バリアフリーによってベビーカーでの外出がしやすくなる
- ホームドア設置が早まるなら仕方がない
- 公共交通機関は特に全ての人が使いやすくするべきだから など

2. 問7で「③あまり良い制度だと思わない」または「④全く良い制度だと思わない」と回答した方の代表的な意見 (86 件)

- 公共インフラとして税金で賄うべきだと思う
- 運賃に転嫁するのはおかしい
- 徴収された費用が具体的になににつかわれてるかわからない
- 料金に転嫁することに違和感はある など

3. 問7で「⑤わからない」と回答した方の代表的な意見 (23 件)

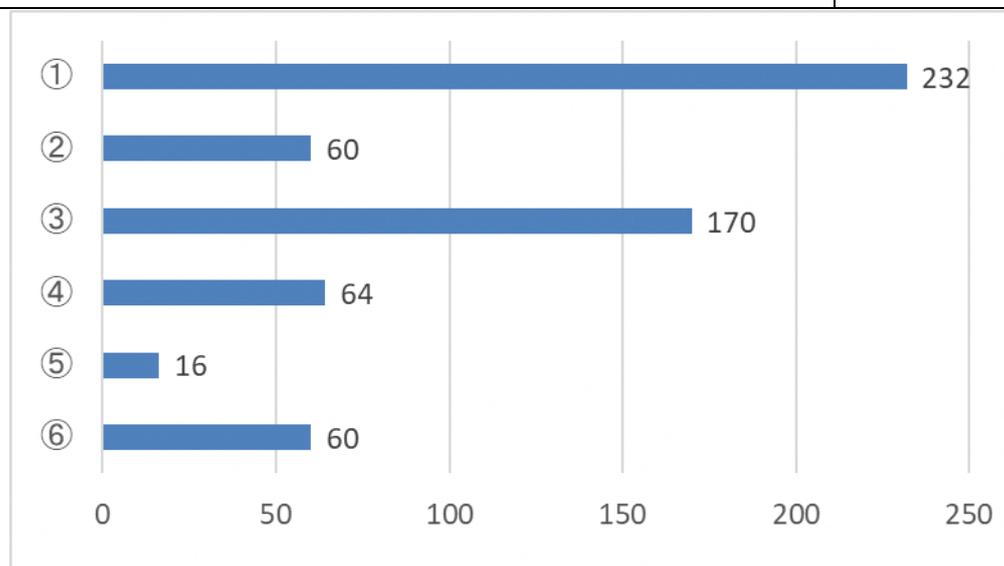
- 今後の情勢を見たい
- よくわからない など

【考察】

全体の約 6 割の方が自由記述への記載があり、関心の高さが伺えます。制度に理解を示す記述の 145 件は、理解が示せないという記述の 86 件を大きく上回っており、障害者だけでなく、子連れの方やベビーカー利用者をはじめ、健常者に対する安全配慮面への記述も多く、障害のある人もない人も、共に安心して安全に暮らせる共生社会の実現に向けた市民意識の高さが伺えました。

問9. 問1で回答された駅の駅前広場（駅前ロータリー）について、求めることは何ですか。（複数選択可）

選択項目	回答数(件)
①バス等の公共交通機関の待ち合い環境の充実（ベンチ、木陰、緑化）	232
②歩道上におけるイベント開催ができる空間	60
③歩行空間の充実	170
④よく利用する駅には駅前広場がない	64
⑤わからない	16
⑥その他	60
合計	602



【考察】

上記結果より、駅前広場において「バス等の公共交通機関の待ち合い環境の充実」が求められていることが読み取れます。次に「歩行空間の充実」を求められている方が多いことが読み取れます。樟葉駅前広場の環境整備を現在検討しているため、問1で「樟葉駅」をよく利用する方々について精査すると、「バス等の公共交通機関の待ち合い環境の充実」を望む声が多いことがわかります。

<まとめ>

本結果については、学識経験者、行政、交通事業者、障害者組織等で構成する本市の外部連携組織である枚方市バリアフリー推進協議会に報告し、情報共有と意見交換を行ったのうえ、枚方市域における更なるバリアフリー化の推進に役立てさせていただきます。

また、駅前広場に関しては、樟葉駅前広場について、「施設の老朽化」などの課題があることを市として認識しており、今回のアンケート結果を踏まえ、環境の充実等の検討を進めてまいります。

市民相談およびパブリックコメントに関するアンケート

本市では、市民の皆様が日常生活の中で直面する様々なトラブルを解決する一助となるよう、相談担当職員による相談（生活相談）と、弁護士や認定司法書士等の専門相談員による各種専門相談を行っております。長引くコロナ禍の影響等も踏まえ、オンライン相談の実施など、市民の皆様に寄り添った相談対応に努めているところです。今後も相談業務の充実に向け、市民の皆様のニーズをお聞きするためアンケートを実施いたしました。

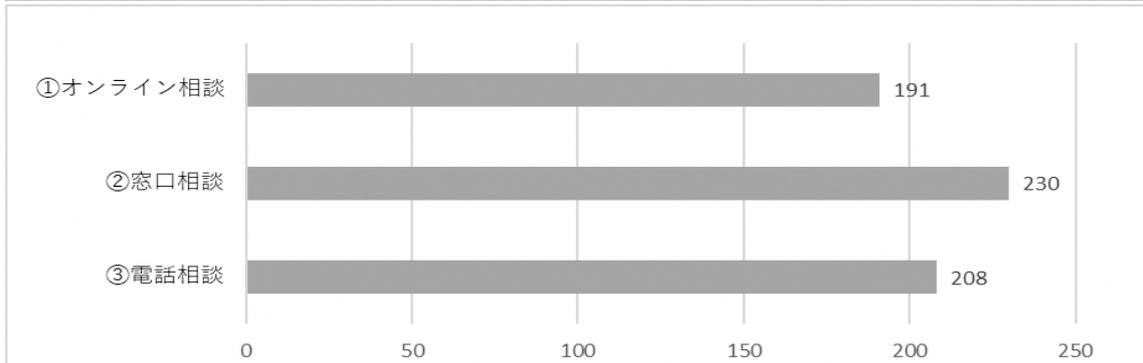
また、市民の皆様から市政に関する意見を提出いただく機会としてパブリックコメント制度を設けております。広報紙やホームページ等にて周知を行っておりますが、市民の皆様により広く浸透していくよう制度の在り方を検討したいと考えております。

今回いただきましたご意見は、今後の相談業務の充実やパブリックコメント制度の在り方について検討するための参考とさせていただきます。

<市民相談について>

問 1. 相談する機会があれば、利用したいと思う相談方法を選んでください。
(複数選択可)

選択項目	回答数 (件)
①オンライン相談(※自宅等からパソコンやスマートフォンを使用して、相談員の顔を見ながらの相談)	191
②窓口相談	230
③電話相談	208
合計	629

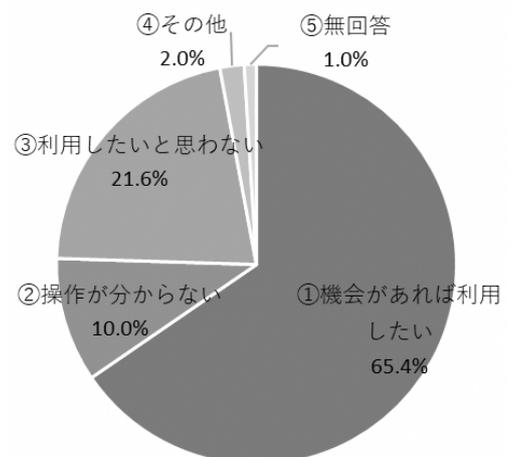


【考察】

「②窓口相談」が最も多くなりましたが、「①オンライン相談」「③電話相談」とも大きな差がないことから、いずれの方法にもそれぞれニーズがあり、引き続き気軽に相談できるよう ICT を活用した環境整備が求められていることがわかりました。

問 2. オンライン相談について、あてはまる番号を1つ選んでください。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①機会があれば利用したい	267	65.4%
②利用してみたいと思うが、パソコン・スマートフォン等の操作がわからない	41	10.0%
③利用したいと思わない	88	21.6%
④その他	8	2.0%
⑤無回答	4	1.0%
合計	408	



「④その他」と回答された方の意見としては、「オンライン環境がない」「意思疎通がうまくはかれるか不安」「相談時間の制約があるのではと不安」がありました。

【考察】

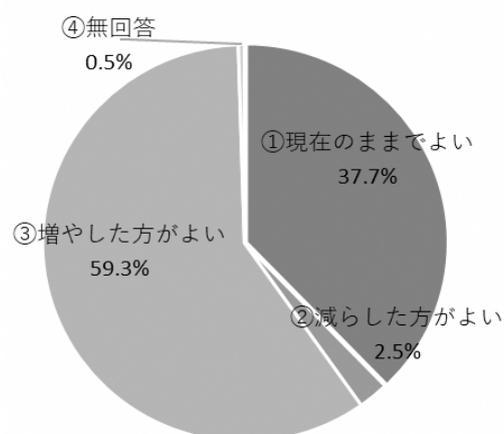
オンライン相談については、「③利用したいと思わない」と回答した人が21.6%でしたが、「①機会があれば利用したい」「②利用してみたいが操作がわからない」と回答した人は75.4%と3倍以上の差があり、認知度や利便性を高めていくことで、今後さらにオンライン相談の需要は拡大していくものと考えられます。

生活相談

生活相談では、相続や離婚、家庭・近隣問題等について、相談担当職員がアドバイスや情報提供を行っています。

問 3. 生活相談は、市役所別館 5 階の市民相談コーナーで月曜日～金曜日の 9 時から 17 時 30 分に実施しています。令和 3 年度は年間 5,248 件、1 日平均 21.7 人の利用がありました。この相談について、あてはまる番号を 1 つ選んでください。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①現在の相談体制のままでよい	154	37.7%
②相談日を減らした方がよい	10	2.5%
③相談日や時間帯を増やした方がよい(土曜・日曜、平日夜間など)	242	59.3%
④無回答	2	0.5%
合計	408	



【考察】

生活相談については、「③相談日や時間帯を増やした方がよい」との回答が最も多くなり、平日以外や平日夜間の相談も希望されていることが分かります。

問 4. 生活相談に希望することなどを、ご自由にご記入ください。

<主なご意見>

ー相談員について 18 件

- ・相談→解決まで親身になってほしい
- ・他の関係機関などと連携できる体制が整っていると安心できる
- ・知識のある相談員が対応してほしい

ープライバシーへの配慮について 10 件

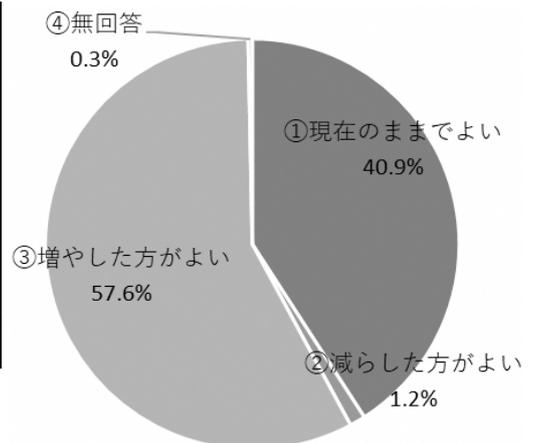
- ・個人情報もしっかりとルールを定めて管理してほしい
 - ・窓口での相談内容が周囲に洩れないような簡易衝立の設置などが必要
- －相談日時、内容の拡充について 50 件
- ・仕事で平日に相談できない人のため、平日の枠を減らして、土日や平日夜間に相談できる日を設定してほしい
 - ・オンラインや電話など自宅から気軽に相談できる環境が充実すれば有難い
 - ・チャット相談ができれば若い人の相談も増えるのではないか
- －周知について 14 件
- ・どのような相談ができるのか、具体的な相談事例等を教えてほしい
- －その他、要望等
- ・相談することで自身の気持ちの整理ができる、相談機能は必要だ 9 件
 - ・今後は外国語対応も必要になってくると思う
 - ・本庁だけでなく、他の公共施設でも相談できるようにしてほしい

専門相談

専門相談では、弁護士・司法書士・行政書士などによる各種専門相談を実施しています。

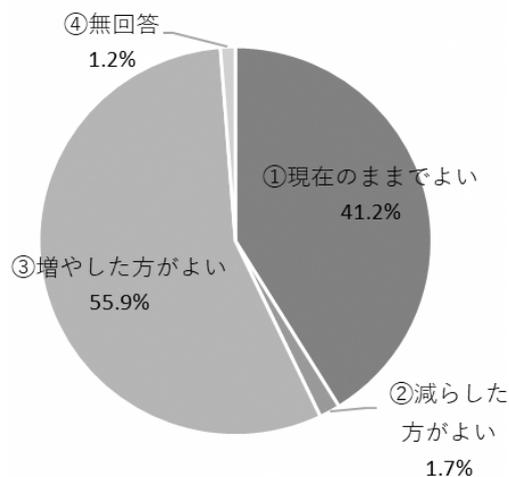
問 5. 弁護士による法律相談は、毎週火曜日と金曜日の 13 時から 17 時に予約制（1 日 8 人、窓口・電話・オンラインでの相談）で実施しています。令和 4 年度上半期（4 月～9 月）は、395 人の利用があり、利用率は 99.5%でした。この相談について、あてはまる番号を 1 つ選んでください。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①現在の相談体制のままでよい	167	40.9%
②相談日を減らした方がよい	5	1.2%
③相談日や時間帯を増やした方がよい	235	57.6%
④無回答	1	0.3%
合計	408	



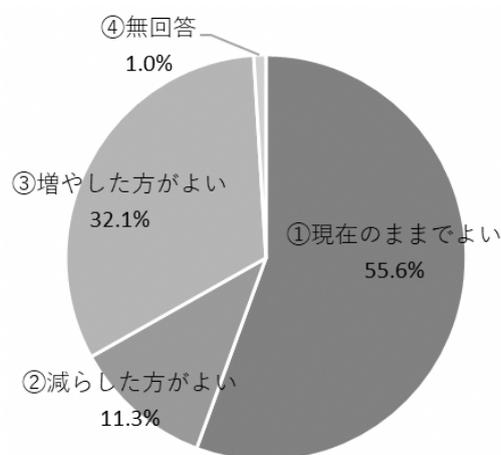
問 6. 認定司法書士による法律相談は、毎週月曜日と水曜日の 13時から 16時に予約制（1日 6人、窓口・電話・オンラインでの相談）で実施しています。令和 4 年度上半期（4月～9月）は、290 人の利用があり、利用率は 99.0%でした。この相談について、あてはまる番号を 1つ選んでください。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①現在の相談体制のままでよい	168	41.2%
②相談日を減らした方がよい	7	1.7%
③相談日や時間帯を増やした方がよい	228	55.9%
④無回答	5	1.2%
合計	408	



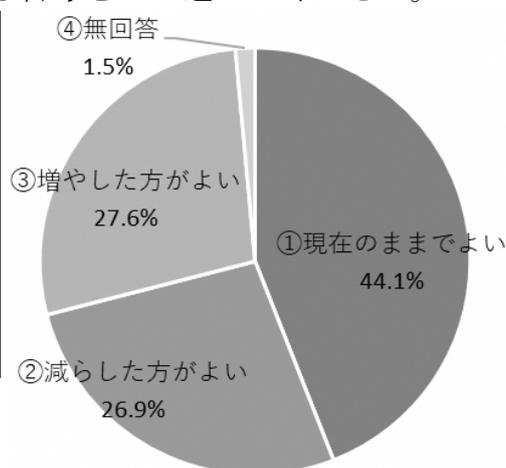
問 7. 司法書士による登記相談は、今年度より相談日を増やし、毎週第 1・3 木曜日の 13時から 15時と第 2・4 火曜日の 10時から 12時に予約制（1日 4人、窓口・電話での相談）で実施しています。令和 4 年度上半期（4月～9月）は、64 人の利用があり、利用率は 69.6%でした。この相談について、あてはまる番号を 1つ選んでください。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①現在の相談体制のままでよい	227	55.6%
②相談日を減らした方がよい	46	11.3%
③相談日や時間帯を増やした方がよい	131	32.1%
④無回答	4	1.0%
合計	408	



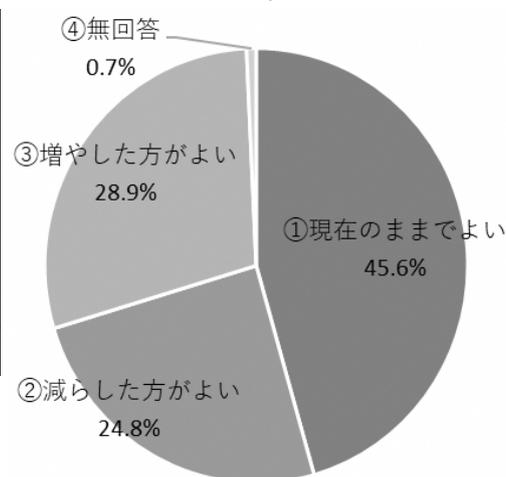
問 8. 司法書士による成年後見相談は、第 1・3 木曜日 10 時から 12 時と第 2・4 木曜日 13 時から 15 時に、予約制（1 日 4 人、窓口・電話での相談）で実施しています。令和 4 年度上半期（4 月～9 月）は、25 人の利用があり、利用率は 28.4% でした。この相談について、あてはまる番号を 1 つ選んでください。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①現在の相談体制のままでよい	180	44.1%
②相談日を減らした方がよい	110	27.0%
③相談日や時間帯を増やした方がよい	112	27.4%
④無回答	6	1.5%
合計	408	



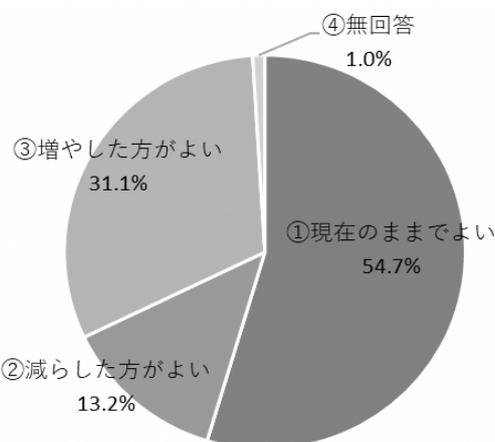
問 9. 交通事故相談員による交通事故相談は、毎週火曜日・金曜日の 13 時から 17 時に予約制（1 日 4 人、窓口・電話・オンラインでの相談）で実施しています。令和 4 年度上半期（4 月～9 月）は、64 人の利用があり、利用率は 32.0% でした。この相談について、あてはまる番号を 1 つ選んでください。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①現在の相談体制のままでよい	186	45.6%
②相談日を減らした方がよい	101	24.8%
③相談日や時間帯を増やした方がよい	118	28.9%
④無回答	3	0.7%
合計	408	



問 10. 行政書士による遺言書・内容証明作成相談は、第 2・4 木曜日 10 時から 12 時に予約制（1 日 4 人、窓口・電話での相談）で実施しています。令和 4 年度上半期（4 月～9 月）は、22 人の利用があり、利用率は 50.0%でした。この相談について、あてはまる番号を 1 つ選んでください。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①現在の相談体制のままでよい	223	54.7%
②相談日を減らした方がよい	54	13.2%
③相談日や時間帯を増やした方がよい	127	31.1%
④無回答	4	1.0%
合計	408	

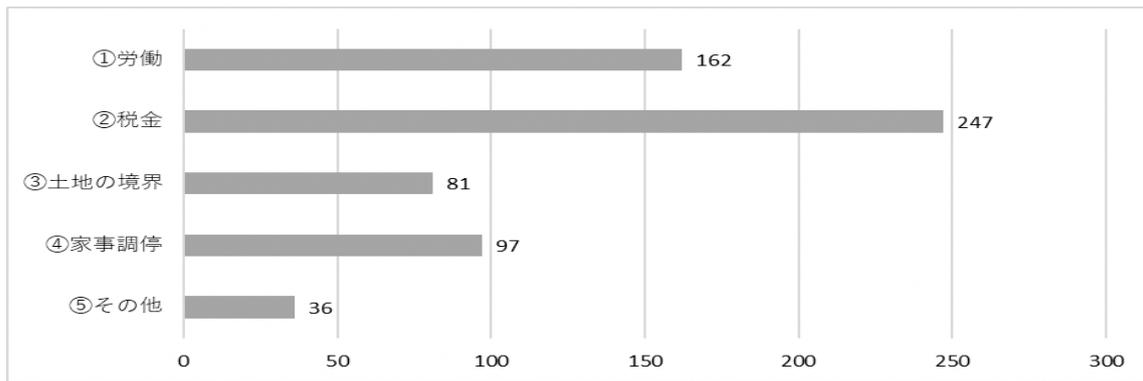


【考察】

問 5～問 10 の専門相談の体制について、弁護士や認定司法書士による法律相談は、「③相談日や時間帯を増やした方がよい」との意見が最も多くなっており、それ以外の登記相談、成年後見相談、交通事故相談、遺言書・内容証明作成相談は「①現在の相談体制のままでよい」が最も多くなりました。法律相談の利用率は 100%近くなっていることから、法律相談の体制の充実を求める意見が半数以上を占めました。

問 11. 今後、専門相談としてあればよいと思う相談内容を選んでください。（複数選択可）

選択項目	回答数 (件)
①労働	162
②税金	247
③土地の境界	81
④家事調停	97
⑤その他	36
合計	623



【考察】

「その他」と回答された方の主な意見として、「相続」「子育て」「近隣問題」「介護」のほか「様々な制度について相談できる総合窓口」などがありました。新たに開設を望む相談内容としては「税金」、「労働」に関する相談ニーズが高いことがうかがえました。

問 12. 専門相談に希望することなどを、ご自由にご記入ください。

<主なご意見>

－相談員について 14 件

- ・専門的な話を分かりやすく、親身に市民に寄り添って教えてほしい

－相談日時、内容の拡充について

- ・相談時間が 30 分では短い 10 件
- ・土日や休日にも相談できるとよい 10 件
- ・チャットでのやり取りや時間外もメールでやり取りができると良い 3 件

－周知について

- ・専門相談がある事を知らなかった。もっと周知してほしい 10 件
- ・よくある相談などが事例紹介されているとイメージしやすい 2 件
- ・専門相談は敷居が高い。どんな相談ができるのか、分かりやすく紹介してほしい

－その他、要望等

- ・気軽に相談できる体制が必要 6 件
- ・相談内容がこれだけ充実していることを初めて知った。困ったことがあったら、利用したいと思う 9 件

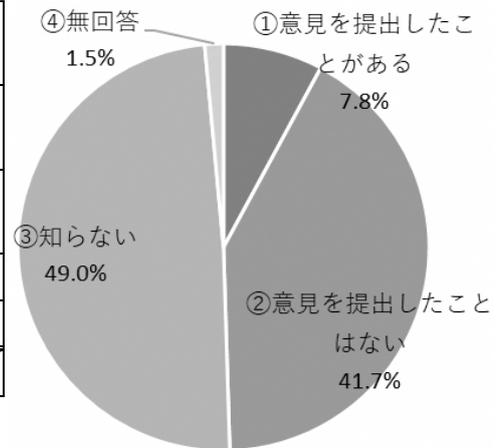
<パブリックコメントについて>

パブリックコメント制度とは、市の政策形成過程において、趣旨・目的・内容等を広く公表し、市民の皆様からの意見を求め、その意見等を考慮して、政策及び施策の最終案に反映させる手続きをいいます。

実施する際には、市ホームページや広報紙でお知らせするとともに、市役所や各支所に設置した意見箱や市ホームページの専用アンケートフォーム(以下、Logo フォーム)を通じて、市民の皆様からの意見を受け付けています。また、寄せられた意見とそれに対する市の考え方についても公表しています。

問 13. パブリックコメント制度を知っていましたか。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①知っている、意見を提出したことがある	32	7.8%
②知っているが、意見を提出したことはない	170	41.7%
③知らない	200	49.0%
④無回答	6	1.5%
合計	408	



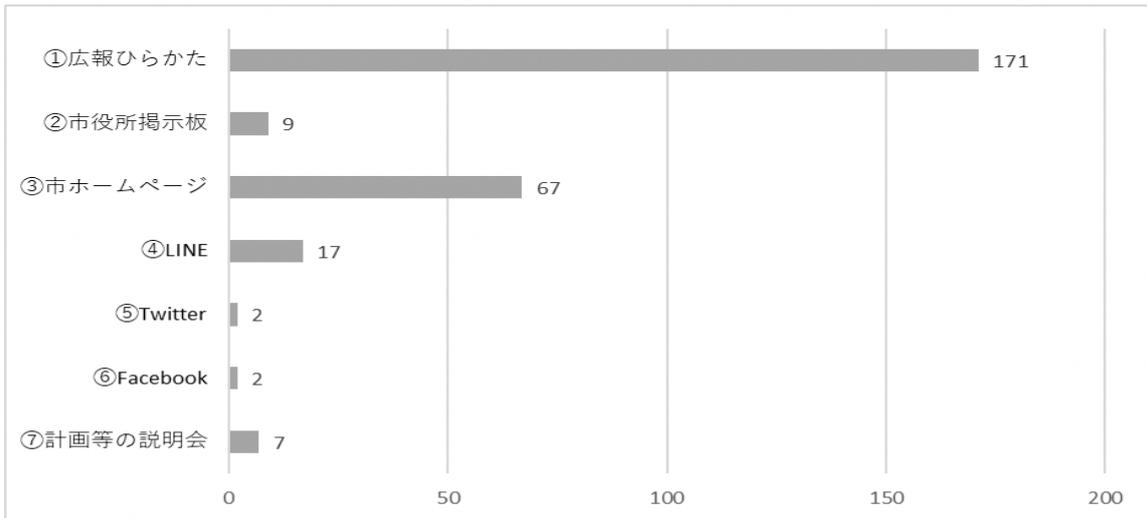
【考察】

パブリックコメントについては、知っている方と知らない方がほぼ同数となっていますが、意見を提出したことがある方は全体の 10%未満となりました。制度の認知度の向上や、意見提出方法の工夫について取り組んでいきます。

【問 13 で①②を選択した方にお聞きします。】

問 14. パブリックコメントの実施をどのように知りましたか。(複数選択可)

選択項目	回答数 (件)
①広報ひらかた	171
②市役所掲示板	9
③市ホームページ	67
④LINE	17
⑤Twitter	2
⑥Facebook	2
⑦計画等の説明会	7
合計	275



【考察】

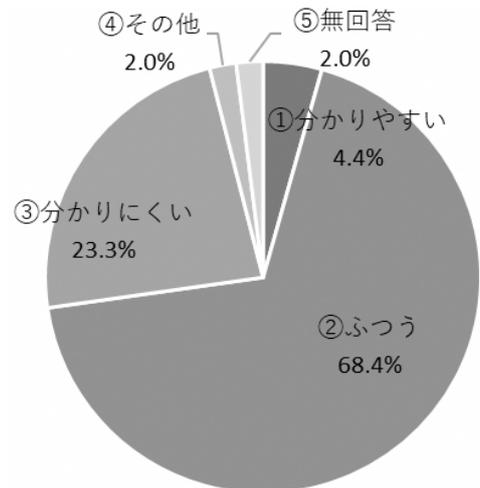
パブリックコメントの実施については、「①広報ひらかた」で知ったとの回答が最も多くなりました。令和4年度はLINEでの配信も行っており、少数ながら「④LINE」でパブリックコメントの実施を知ったとの回答もありました。

一方で、問13において、制度について「③知らない」と回答した方が約半数いたことから、今後様々なツールを活用してさらなる周知を図ります。

【問13で①②を選択した方にお聞きします。】

問15. パブリックコメントの資料について、あてはまる番号を1つ選んでください。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①分かりやすい	9	4.4%
②ふつう	138	68.3%
③分かりにくい	47	23.3%
④その他	4	2.0%
⑤無回答	4	2.0%
合計	202	



「④その他」と回答された方の意見としては、「読んだことがない」「市が決めた方向に誘導的な資料の示し方では、本当の市民意見を集めた事にはならない。」などがありました。

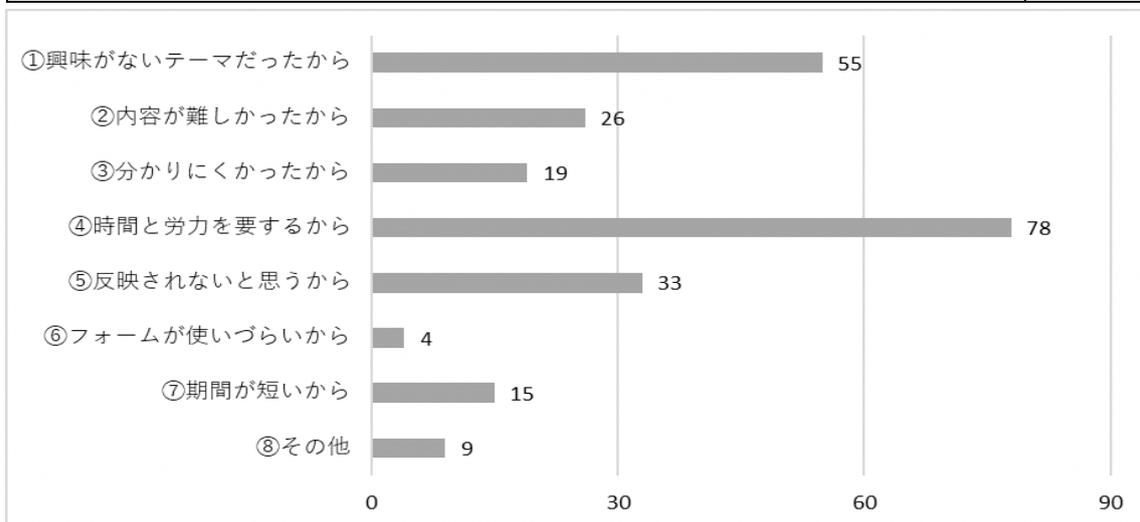
【考察】

資料の分かりやすさについては、半数以上が「②ふつう」との回答となりましたが、「①分かりやすい」との回答は10%以下となったため、パブリックコメントを効果的に実施するためにも、市民にとって分かりやすいと感じてもらえる資料作成に取り組む必要があると考えられます。

【問13で②を選択した方へお聞きします】

問16. 意見を提出しなかった理由について、あてはまる番号を選んでください。(複数選択可)

選択項目	回答数 (件)
①興味がないテーマだったから	55
②内容が専門的で難しかったから	26
③資料が多く、分かりにくかった	19
④意見を出すには、時間と労力を要するから	78
⑤意見を出しても反映されないと思うから	33
⑥Logo フォームが使いづらいから	4
⑦意見募集期間が短いから	15
⑧その他	9
合計	239



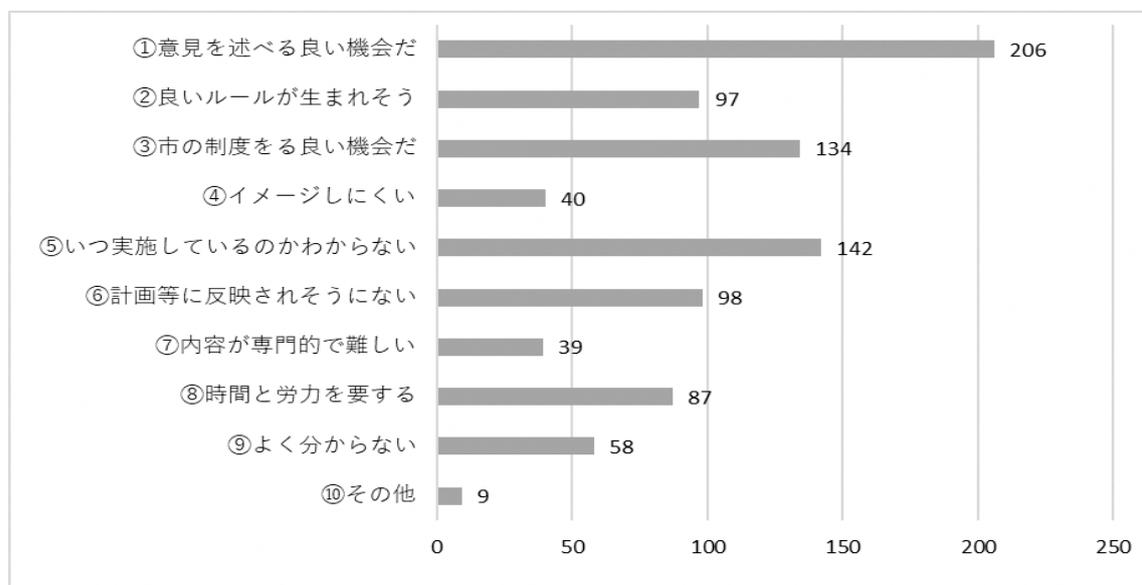
「⑧その他」と回答された方の意見としては、「特に意見がない」「氏名記入をしないといけないから」「意見を出しても議論・採択されているかどうか分からない」「意見を出す時点で方針がほぼ決定しており、意見を採用してくれそうにないと思われるから」などがありました。

【考察】

「④意見を出すには、時間と労力を要するから」との回答が最も多くなり、パブリックコメントの意見提出が、市民にとって負担の大きいものであることが分かりました。提出方法や資料などを工夫し、意見提出の負担を軽減する取り組みも必要であると考えます。

問 17. パブリックコメントの印象について、あてはまる番号を選んでください。
(複数選択可)

選択項目	回答数 (件)
①市政に対して意見を述べる良い機会だ	206
②市民の生活に寄り添った良いルールが生まれそう	97
③市の制度や政策について知る良い機会だ	134
④身近なテーマではないのでイメージしにくい	40
⑤いつ実施しているのかわからない	142
⑥意見を提出しても、計画等に反映されそうにない	98
⑦内容が専門的で難しい	39
⑧意見を出すには、時間と労力を要する	87
⑨よく分からない	58
⑩その他	9
合計	910



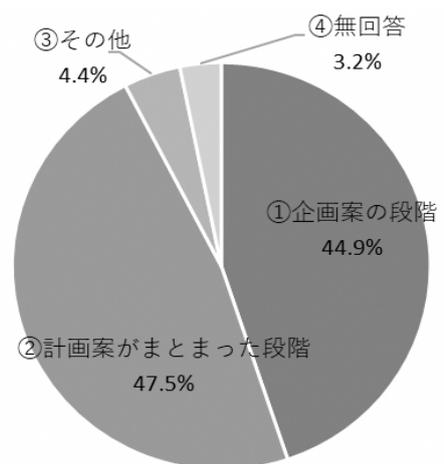
「⑩その他」と回答された方の意見としては、「パブリックコメントの意味がわからない」「仕事をしていると、なかなか市の広報やHPを見ることなく、募集していることに気づかない」「パブリックコメント自体が周知されていない。もしくはアピール不足」「パブコメを行ったという実績作りのために実施している印象」「資料が一定期間を過ぎると市ホームページから削除され、閲覧できなくなってしまう。過去の資料をデータベース化して閲覧できるよう改善した方がいい」などがありました。

【考察】

パブリックコメントに関して、「①市政に対して意見を述べる良い機会だ」「③市の制度や政策について知る良い機会だ」と感じている方が多くなりました。その一方で、「⑤いつ実施しているのかわからない」との回答も多く、「⑩その他」においても制度周知に関するご意見が複数あったことから、今後の周知方法を検討していく上での参考とします。

問 18. パブリックコメントの実施にあたっては、行政内部や審議会等での話し合いを経て、まとめられた案をもとに、計画等が制定される概ね3か月前頃に実施しています。この実施時期について、あてはまる番号を1つ選んでください。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①行政内部等で議論される前の 企画案の段階で実施した方が よい	183	44.9%
②行政内部等で十分議論し、計 画案がまとまった段階で実施 した方がよい	194	47.5%
③その他	18	4.4%
④無回答	13	3.2%
合計	408	



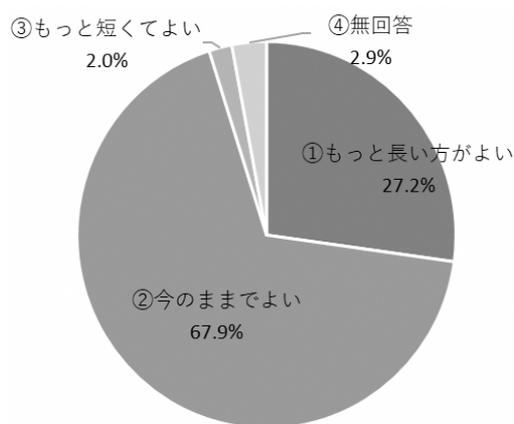
「③その他」と回答された方の意見としては、「企画案の段階から、市民や関係者の意見を積極的に取り入れて、検討した方が良い」「内容に応じて実施時期を変える方が良い」などがありました。

【考察】

「①企画案の段階で実施した方がよい」と「②計画案がまとまった段階で実施した方がよい」がほぼ同数となりました。「③その他」では「内容による」との意見もあり、案件に応じて、適切な実施時期についても検討する必要があると考えられます。

問 19. パブリックコメントは意見募集の期間を 20 日以上としています。この意見募集期間についてあてはまる番号を 1 つ選んでください。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①もっと長い方がよい	111	27.2%
②今のままでよい	277	67.9%
③もっと短くてよい	8	2.0%
④無回答	12	2.9%
合計	408	



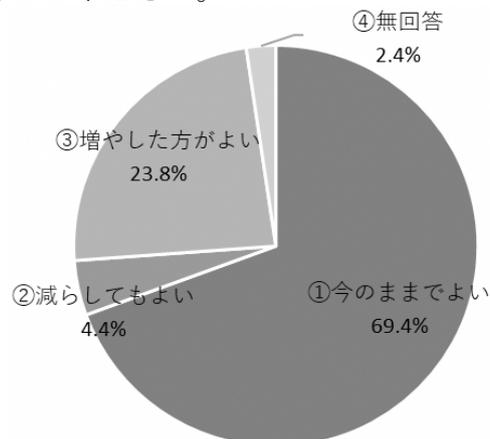
【考察】

意見の募集期間は 6 割以上の方が「②今のままでよい」と回答しており、意見を提出するにあたって、現状(20 日以上)でもおおむね必要な回答期間が確保できていると言えることがわかりました。

問 20-1. 意見提出の方法については、意見箱、FAX、郵送での意見用紙の提出のほか、Logo フォームから提出することができます。

意見箱は、市所管施設のうち担当課、市役所別館・本館受付、3 支所には必ず設置し、生涯学習市民センター、中央図書館などには任意での設置としています。設置場所について、あてはまる番号を 1 つ選んでください。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①今のままでよい	283	69.4%
②設置場所は減らしてもよい	18	4.4%
③設置場所は増やした方がよい	97	23.8%
④無回答	10	2.4%
合計	408	



【問 20-1 で③と答えた方へお聞きします】

問 20-2. 市所管施設のうち、どこに設置すれば良いとお考えですか。

<設置場所>

- －生涯学習市民センター、中央図書館などに必ず設置 7件
- －図書館（全図書館・移動図書館等） 10件
- －駅 20件
- －ショッピングセンター、大型商業施設、スーパー、コンビニ 20件
- －保育園、学校、病院、文化施設(総合芸術文化センター等) 13件
- －銀行、郵便局 3件
- －自治会館、自治会回覧板、公園 5件

<主なご意見>

- －意見提出できる場所は、多い方がいい
- －市の所管施設と言わず、住民が多く集まる場所
- －公共施設以外の場所

【考察】

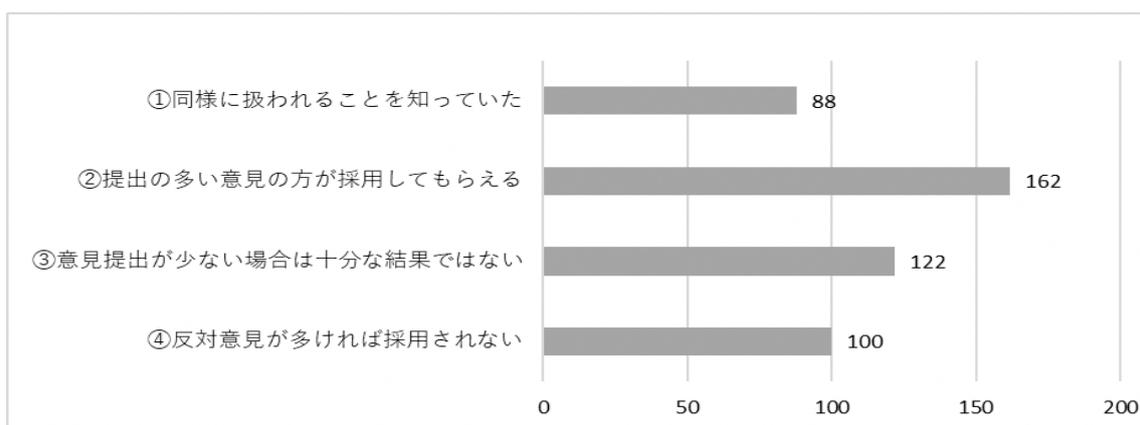
意見提出ができる場所として、7割近くの方が「①今のままでよい」と考えていることが分かりました。増やした方が良いと考えている方からは、現在任意で設置している生涯学習市民センターや図書館への設置を必須とすることや、市所管施設以外の駅や大型商業施設などへの設置を求めるとご意見がありました。

市民にとって身近な場所へ意見箱の設置を求める声もあり、今後意見を提出しやすい環境整備を検討する上での参考とします。

問 21. パブリックコメントは、賛否を問うものではなく、また提出された意見が少数であっても多数であっても、同様に扱います。

これについて、あなたのお考えに近い番号を選んでください。(複数選択可)

選択項目	回答数 (件)
①提出の多い意見も少ない意見も、どちらも同様に扱われることを知っていた	88
②提出が多い意見の方が、計画案等に採用してもらえと思っていた	162
③意見の提出が少ない場合は、パブリックコメントとして十分な結果ではないと思っていた	122
④パブリックコメントは、反対意見が多ければ計画案等は採用されないと思っていた	100
合計	472

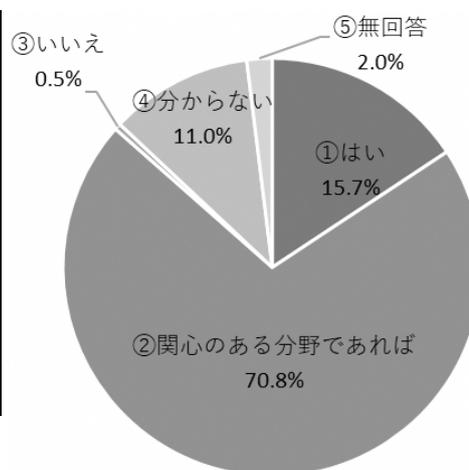


【考察】

パブリックコメントは、提出された意見が少数であっても多数であっても、同様に扱いますが、「①同等に扱われることを知っていた」との回答が最も少なかったことから、パブリックコメントにて提出された意見の取り扱い方法についても理解を促す必要があるということが分かりました。

問 22-1. 今後パブリックコメントが実施された場合、意見を提出したいと思いますか。

選択項目	回答数 (人)	割合 (%)
①はい	64	15.7%
②関心のある分野であれば意見を提出したい	289	70.8%
③いいえ	2	0.5%
④分からない	45	11.0%
⑤無回答	8	2.0%
合計	408	



【問 22-1 で③又は④を選択した方へお聞きします】

問 22-2. その理由は何ですか。

<主なご意見>

- ・よくわからないから
 - －自分の意見がはたして適切か不安
 - －どういった意見を出せば良いか分からない
 - －パブリックコメント制度があるという事をもっと周知する必要がある

- ・時間、手間がかかるから
 - －毎日仕事と家事に追われており、なかなか時間がない
 - －分量が多いので、読むのが大変
 - －誰でも簡単にわかるように、資料は簡潔にしてほしい

- ・興味、関心がないから
 - －自分の生活に影響するような身近な分野であれば、提出するかもしれない
 - －意見が政策に反映される期待よりは、意見に対する回答にとどまり、結果は変わらないと思うため

【考察】

意見提出をしたいとの回答が8割以上を占めた一方で、「どういった意見を出せば良いか分からない」「身近な分野であれば提出したい」といったご意見もありました。意見募集を行う施策の内容やパブリックコメント制度そのものの周知については、市民に伝わりやすい工夫が必要だと考えられます。

【まとめ】

＜市民相談について＞

問1から問12の市民相談に関しては、相談できる場があることにより、安心した生活に繋がるとの市民相談機能を期待する声が多数あり、日時や内容などの拡充を希望する意見も多くありました。一方で、市民相談そのものを知らなかったとの意見もあり、市民の皆様へ向けた更なる周知・PRが必要であると考えています。幅広い世代に向けてご案内できるよう、広報紙への掲載はもちろんSNSの活用などにも積極的に取り組んでまいります。

社会情勢が変化していくとともに、市民の皆様が抱える問題も多様化、複雑化しています。そういったニーズに対応できるよう、関係機関とも連携し、情報共有を図るなど、今後も市民相談の充実を図ってまいります。

＜パブリックコメントについて＞

問13～問22のパブリックコメントに関しては、パブリックコメントを知らなかったという回答や、提出された意見の取り扱いで十分に理解が進んでいない回答などが目立ち、パブリックコメント制度そのものの周知に課題があると感じました。

現在は、広報ひらかたや市ホームページへの掲載にてパブリックコメントの実施をお知らせしていますが、今後はLINEやTwitterなどSNSの活用にも取り組んでいきたいと考えます。

また、意見提出をしていない方の多くが、回答することに対して時間や手間がかかるとの負担を感じておられることから、意見提出の方法や資料作成においてパブリックコメントが市民の皆様にとって身近な存在となるような工夫が必要であると考えます。

パブリックコメントは、広く市民の皆様からのご意見を聞く機会であるとともに、本市の制度・施策に関心を持っていただき、ともに市政に参画していただく貴重な機会でもあります。正しい制度周知に取り組むことで、パブリックコメントそのものや市が立案する制度・施策への理解が広がり、市政に興味を持ってもらうことにも繋がるものと考えます。今回いただいたご意見を参考に、市民生活に関わる制度・施策を皆様とともに考え、市政をより良いものとするよう取り組んでまいります。

※ 市ホームページ トップページ（総合メニュー）＞組織一覧

＞広聴相談課＞パブリックコメント制度

<https://www.city.hirakata.osaka.jp/000000310.html>

(予定一覧など随時更新していますので、よろしければご参照ください。)

